

2024年度(令和6年度)

事業報告書

(自)2024年 4月 1 日
(至)2025年 3月 31 日

社会福祉法人 世田谷ボランティア協会

目 次

はじめに	1
I. ボランティア・市民活動推進第1部 総括	2
1. ボランティアコーディネート事業	2
2. ボランティア学習事業	5
3. ボランティア情報ネットワーク事業	6
4. 地域連携促進事業	7
5. パートナーシップ事業	8
6. コミュニティビジネス事業	11
7. せたがやチャイルドラインの取組み	12
8. 職員体制	14
ボランティア・市民活動推進第1部	
実績報告 データ・資料編	15
※ボランティア・市民活動推進第1部の成果と課題は1～7の各項目に記載	
II. ボランティア・市民活動推進第2部(せたがや災害ボランティアセンター)総括	38
1. 災害ボランティアコーディネーターの拡充	38
2. サテライトでのコーディネート活動を充実させるための基盤整備	39
3. 行政や避難所運営組織等と連携した区民への情報提供の拡充	40
4. 災害ボランティア登録制度の整備	41
5. ネットワーク・情報交換活動	41
6. 災害支援のための活動	42
7. 成果と今後の課題	45
8. 職員体制	46
ボランティア・市民活動推進 第2部	
実績報告 データ・資料編	47
III. 福祉事業部 総括	51
1. ケアセンターふらっと	52
(障害者総合支援法 生活介護事業・訓練事業(生活介護)	
・高次脳機能障害者支援促進事業・特定相談支援事業)	
2. ケアセンターwith	55
(介護保険 地域密着型通所介護事業)	
3. ケアステーション連	57
(①介護保険 訪問介護事業、②障害者総合支援法・	
居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、	
③自由契約による事業)	
4. ケア相談センター結	59
(介護保険 居宅介護支援事業 認知証当事者の	
ための社会参加プログラム開発研究事業)	
5. 地域障害者相談支援センターぽーとせたがや	61
(障害者総合支援法 地域生活支援事業)	
6. パートナーセンター事業	63
福祉事業部 実績報告 データ・資料編	66
IV. 組織推進部 総括	73
1. 組織運営	73
2. 事務局運営	76
3. 財務運営	77
4. 職員体制／5. 中期計画の進捗状況	79
6. 今後の課題	80
組織運営体制図	81

2024年度事業報告

はじめに

2020年から2023年までおよそ4年間続いた新型コロナウイルス感染症の影響は、2024年にはようやく落ち着いてきた。人と人とのふれあいや交流する機会が戻り、当協会の活動も徐々にコロナ禍前のように、顔の見える関係づくりを進めることができるようになった。

2024年度からの新たな中期計画のスタートにあたり、前計画で進めてきた「ボランタリーなコミュニティづくり」の実績を踏まえ、「協会がめざす姿」を再確認し区内全域に広めるために、まずは身近な地域に根付かせることができるよう、ボランティア・市民活動推進や福祉事業部での各事業での活動を地道に進めてきた。

各部の取り組みの詳細については、各部のページをご覧くださいと思うが概略を以下にまとめる。

ボランティア・市民活動推進第1部では、ボランティアコーディネート事業をはじめ、区などとの連携事業により、より強固なネットワークの構築を進めるとともに、子どもの声に耳を傾け、気持ちを受け止めるチャイルドライン活動の充実に努めた。

ボランティア・市民活動推進第2部(災害ボランティアセンター)では、能登半島地震被災地支援活動を通じて災害ボランティアコーディネーター養成の必要性が再認識されたことや、区民の関心の高まりを背景に、指定避難所ファーストアクションカードの再構築の提案をはじめ、多くの区民が住む「マンション防災への取り組み」をテーマにシンポジウムを開催するなど、災害ボランティア活動にかかわる人材育成や普及啓発活動に取り組んだ。

福祉事業部では、介護保険・障害福祉サービス報酬改定が行われ、介護職員への処遇改善加算等の改正される一方、生活介護や訪問介護支援事業で基本報酬の見直しがあり、大きな影響が出た。このような状況の中、新規利用者の受け入れを積極的に行い、事業部全体で250名ほどの新規利用につながり、継続してサービスを利用されている方も合わせ、延べ780名の方へ支援を行うことができた。今後も、地域から必要とされる事業の継続に向け、真摯に専門職として研鑽を積みながら、障害のある方々が希望をもち暮らしていくことにつながるよう、事業活動を地域の中で継続していく。

組織推進部では、中期計画の中で「職員が安心して働き続けることのできる職場環境づくり」と「業務デジタル化の整備・推進」を重点事業としており、勤怠管理システムの電子化の導入をはじめ、リスク管理やセキュリティ向上、業務の利便性の向上、コストの削減等の観点から、ETCカードを含むクレジットカードの取り扱いを始めた。また併せて、安定した財源の確保に向けて、24時間受け付け可能な寄付金受け付けのポータルサイトの運用を始めるなど、今後さらに、コストバランスを考慮しながら更なるDXの推進に努めていく。

I. ボランティア・市民活動推進第1部

世田谷区内 5 地域各 1 か所の拠点（ボランティアセンターと 4 つのボランティアビューロー）がそれぞれ地域に根ざした活動を展開した。

ボランティアコーディネート事業については、おたがいさま bank、市民活動・NPO相談などを通じてボランティアマッチングを着実に進めた。また、区と連携したセミナー開催、世田谷区スポーツ振興財団と連携するなど情報発信や活動支援に努めるとともに、世田谷トラストまちづくりとの連携準備も進めた。区と連携した提案型協働事業については、初の取組みとして事業実施団体と地域活動団体との交流会を開催、せたがや学生ボランティアネットワークについてはフォーラムを開催するなど、区と団体との調整にあたり中間支援組織としての役割を果たした。情報誌「セボネ」は、2024 年度に実施したりニューアルがこれまで好評を博しており、引き続き広報の充実を図る。様々な活動団体と相互の交流や関係性を深める事業を開催するとともに、多くの地域イベントに参加し、協会のPRや交流の場の提供とバザーによる自主財源確保に努めた。

せたがやチャイルドラインは、安心して話ができる大人がいることを子どもたちに伝え、子どもの声に耳を傾け気持ちを受けとめる活動を電話とチャットにより実施した。2023年度に改善・整備した組織運営や電話対応シフト調整の仕組みを活用し、持続可能な運営体制の定着を図った。

1 ボランティアコーディネート事業

(1) 重点目標

- ・ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・団体等の活動をコーディネートし、地域とのつながりやボランティア自身の学びの機会として更に拡大していけるよう支援を行う。
- ・活動拠点の特性を活かし情報発信や場の提供等を行い、ボランティアや市民活動・NPOへの支援を充実していく。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①ボランティア相談

烏山ボランティアビューロー開設により区内 5 地域に活動拠点を整備した協会のネットワークを活かし、ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談をセンターやビューローで受け、活動のコーディネートを行った。

2024 年度のボランティア活動希望は計 583 件(前年度比 2%増)、ボランティアを必要とする相談計 230 件(前年度比 7%増)、ボランティア以外の相談は計 286 件(前年度比 31%減)であった。

(相談件数等の詳細は資料編 p. 15-17 参照)

②おたがいさま bank

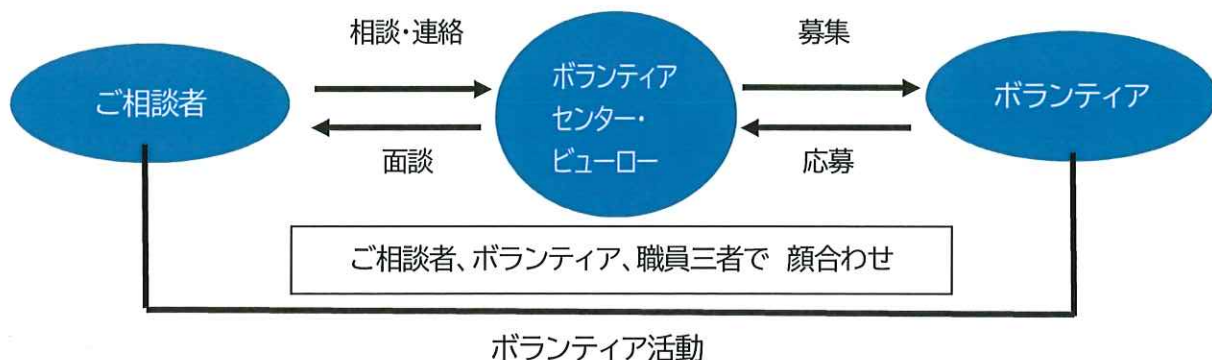
ア. ボランティア情報ガイド「おたがいさま bank」を活用した情報提供とボランティアマッチング

関心のある分野で登録していただき、情報を必要とする人に定期的にボランティア情報を発信し、地域における日常的なボランティア活動の担い手拡大を図った。(詳細は資料編 p. 17 参照)

- ・登録人数 3,961 名(前年度比 12%増 従来からの登録者含む)
- ・男女比 男性 31%、女性 69%

■「おたがいさま bank」のしくみ

- ・ボランティア活動をしようとする方と、サポートを必要とする個人や団体などをつなぎ、活動を支援するしくみ(基本的なしくみは図のとおり)。
- ・このしくみと、協会のウェブサイトを活用した「おたがいさま web」のしくみを総称して「おたがいさま bank」と称している。



■企業のフードドライブ活動と活動団体のマッチング協力

2023 年 6 月から企業の社会貢献の取組と、区内でこども食堂等の活動を行っている団体を世田谷ボランティアセンターがつなぎ、連携することにより、食の支援を必要としている方への食品等の提供と、食品の有効活用(食品ロス削減)を図る取組みを行った。(回収量等は資料編 p. 19 参照)



■公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団との連携

公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団は、地域のスポーツへの参加促進と活動の活性化をめざし、2024 年度から「世田谷スポーツ人材バンク」を開設した。具体的には、スポーツを教える指導者やボランティアとして協力する意向のある個人・団体に登録いただき、必要としている依頼者とマッチングする仕組みである。

ボランティア協会も、「おたがいさま bank」登録者への案内、ボランティア募集情報の「おたがいさま bank」への掲載など連携、協力を行った。

【新規】

イ. AIシステムによるマッチングサイト(世田谷版GBER)

AIシステムによるボランティアマッチングサイト(世田谷版GBER(ジーバー))は、東京大学先端科学技術研究センターが開発し、「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」などボランティア活動をしたい方の関心のある分野のボランティア情報を優先して紹介するしくみである。協会は地域管理者として、区や東京大学先端科学技術研究センターと連携し、ボランティア活動希望者と、サポートを求める方や団体と結び付けることに活用し、ボランティア活動の支援を図った。(詳細は資料編 p. 18 参照)

ウ. 区民・事業者向けセミナーの開催

ボランティア活動希望者と必要とする人をつなぐしくみや世田谷版GBERについて、広く区民、団体・事業所に紹介するセミナーを区(市民活動推進課)と協働で開催した。開催日を従前の平日から土曜日に改め、セミナー後引き続き相談会を行う新たな取組みが好評であった。

(詳細は資料編 p. 18 参照)

③市民活動・NPO相談事業

世田谷区(市民活動推進課)からの委託事業として、市民活動・NPO相談窓口を開設し、任意団体の立ち上げ、NPO法人の設立、広報活動等の団体運営に関する相談を受け、課題解決に向けて伴走型の支援を行った。市民活動・NPO向けのセミナーも実施した。(相談件数等は資料編 p. 18 参照)

■市民活動・NPO応援セミナー

市民活動団体の立ち上げを考えている方、既に活動している任意団体の方、NPO法人を既に設立している方を対象としたセミナーを区(市民活動推進課)と協働で開催した。

(詳細は資料編 p. 19 参照)

■市民活動・NPO専門相談事業

団体の課題について、より専門的なアドバイスを得て解決に向けた取組みにつなげるよう、会計士・税理士、弁護士、社会保険労務士による専門相談を行った。(相談件数等は資料編 p. 18 参照)

■一般財団法人世田谷トラストまちづくりとの連携

一般財団法人世田谷トラストまちづくり(以下、トラストまちづくり)は、空き家、空室、空き部屋等を地域のために活用したいと考えるオーナーの相談窓口となり、市民活動団体とのマッチングを行っている(区の受託事業)。

世田谷区の制度上の建物要件があり、窓口で取り扱える物件が限られていることから、要件を満たさない物件や活用団体が見つからない物件について、市民活動・NPO相談を行っているボランティア協会の仲介による活用の可能性を探るべく、情報提供の協力を得られることとなった。2025 年度開始に向け、2024 年度においてはトラストまちづくりとの役割分担等の調整を行った。

【新規】

④世田谷区提案型協働事業

世田谷区は、「区民による参加と協働のまちづくり」を目標に、地域の課題解決に向けた取組みを進める活動団体を募集し、活動に必要な補助金を支給する「提案型協働事業」を実施している。

世田谷ボランティア協会は、提案型協働事業を支援する中間支援団体として、エントリー団体との調整、会議の運営等を担った。(年間スケジュールは資料編 p. 19 参照)



⑤傾聴ボランティア

ひとり暮らしや日中独居高齢者などさまざまな区民と地域とのつながりづくりをサポートするため、関係機関の協力を得て傾聴のニーズを把握し、傾聴ボランティアをコーディネートし、紹介した。

また、あんしんすこやかセンターや民生児童委員に傾聴ボランティアの紹介と傾聴ボランティア講座の周知を行った。傾聴ボランティア講座を開催するとともに、講座修了後に活動されている方を対象に、活動中の出来事や困りごとを共有しながら学習する機会として、ロールプレイ、ケース検討等のフォローアップを行う学習会を開催した。また、活動されている方や活動準備中の方の出会いや情報交換の場として交流会を開催した。

(詳細は資料編 p. 20 参照)

⑥ボランティアビューローの取組み

地域に密着したボランティア活動の拠点施設として、地域の人たちが出会い、ふれあい、学びあう、各地域のニーズに根ざした特色ある事業をビューローごとに展開した。

■ビューロー共通の取組み

- ・ボランティアコーディネート事業（ボランティア相談、市民活動・NPO相談）
- ・ボランティア情報ネットワーク事業（「ビューローだより」「ボランティアだより」の発行）
- ・ボランティア学習事業（ナツボラ・ジュニア事業の実施）

（ビューローごとの取組みは資料編 p. 20-23 参照）

（3）成果と今後の課題

砧ボランティアビューローは2020年6月に準備室として開設し、4年が経過した。会議室を持たないが、相談拠点として砧地域のボランティア活動推進にあたった。烏山ボランティアビューローは2023年4月の開設から2年が経過し、地域における認知度も高まってきた。いずれも、地域の支援者・事業者の集まる会議に積極的に参加し、支援者からの依頼も多く入っている。引き続き地域におけるボランティア相談・活動拠点としての役割を果たしていく。統合再編して2022年12月に開設した北沢ボランティアビューローとともに、区内5地域の活動拠点相互の連携と役割分担により、この間充実を図ってきた情報発信や場の提供を推進していく。

公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団や一般財団法人世田谷トラストまちづくりなど、区の外郭団体との連携を強化した。これまでも充実を図ってきた学生ボランティア団体と地域団体との連携等、中間支援組織としての取組みを今後も進めていく必要がある。

提案型協働事業については、区との連携（市民活動支援補助金補助事業「支援事業」）の事業期間が2025年3月末までであり、提案型協働事業を支援する形での関わりは2024年度をもって終了することから、2025年度の区の取組みへの円滑な移行に協力する。

2 ボランティア学習事業

（1）重点目標

- ・小・中学校、高校での総合的な学習の時間を活用し、次世代のボランティアの育成を目指す。
- ・体験型学習プログラムであるナツボラ、ナツボラ・ジュニアを通じ、地域の活動団体と連携することで様々な人との出会いや多様な経験を通じて、主体的に行動できる次世代のボランティアの育成を目指す。

（2）取組みと進捗・活動状況

①夏のボランティア体験プログラム「ナツボラ」

様々な人との出会いや多様な経験を通じて地域課題への理解を深め、他者と協力し主体的に行動できる次世代のボランティアを育成することを目的に、ボランティアセンターを中心に企画・実施し、夏休み期間中に中・高・大学生などにボランティア体験の機会を提供した（詳細は資料編 p. 24 参照）。



②小学生向けプログラム「ナツボラ・ジュニア」

地域の支えあいの心を育むことを目的に、ボランティアセンターとボランティアビューローが企画・実施し、夏休みの期間中に小学生とその家族にボランティア体験の機会を提供した。

(詳細は資料編 p. 24 参照)

③総合学習・奉仕体験活動等コーディネート

小中学校の「総合的な学習の時間」や区内の高校・大学からの依頼により、ボランティア活動に参加するための事前学習として、「ボランティア入門講座」等の授業協力を行った。

(詳細は資料編 p. 24 参照)

④ボランティアビューローの取組み

■障害についての勉強会(2回)(玉川ボランティアビューロー)

大学生が障害について考え・知る機会として、国士舘大学刑事学研究会との共催により勉強会「地域でボランティアをやってみよう!」を国士舘大学にて開催した。

	実施日	テーマ	参加者数
第1回	6月13日	「知的障害疑似体験」「人とかかわるとき」	14名
第2回	6月20日	「発達障害の理解と対応」「世田谷区役所の仕事と障害者の支援」	19名

(3) 成果と今後の課題

学校におけるボランティア学習が学内から地域に広がるなど、ボランティア活動や体験プログラムへのニーズが高まっていることを踏まえ、連携先施設の理解と協力を得ながら学習機会の充実やコーディネートを、引き続き積極的に進めていく必要がある。

3 ボランティア情報ネットワーク事業

(1) 重点目標

- ・インターネットを活用した広報媒体(ホームページ、ブログ、メールマガジン、Facebook、Instagram)と紙による広報媒体(セボネ、ビューローだより)の特徴や利点を活かした情報発信を行う。
- ・多様な市民活動の紹介、活動情報等を掲載し、地域に関わるきっかけとなるとともにボランティア協会の認知度を高めるよう掲載内容の充実を図る。

(2) 取組みと進捗・活動状況

ボランティアに関する情報センターとして、ボランティア募集情報と併せて活動に必要な知識やスキルを得る講座等、ニーズや社会の状況に対応した情報発信に努めた。

①ボランティア情報誌「セボネ」

「人が変わる 社会が変わる」をコンセプトに、生活のあらゆる場面からボランティアを身近に感じてもらうための情報誌「セボネ(セタガヤ・ボランティア・ネットワーク)」を毎月4,500部(災害特集号は6,500部)発行した。

特集記事や団体紹介等の掲載内容の検討にあたっては、ボランティアの編集委員による編集会議を毎月開催し、誌面の充実を図った。情報誌の名称を「ぼらんていあ」から「セボネ」に改題して2024年5月に20年を迎えたことを契機に、2024年5月号から誌面のカラー化、UD書体の採用やフォント拡大などのリニューアルを行った。(編集委員、発行実績等は資料編 p. 25-26 参照)【拡充】



②ボランティアビューロー情報紙

ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を地域の人たちに提供するため、各ビューローによる「ビューローだより」「ボランティアだより」を毎月発行した。

【毎月の発行部数】

北沢 2,540 部、玉川 1,990 部、砧 1,100 部、烏山 750 部+掲示 17 部

③電子媒体を活用した情報発信

協会ホームページを運営するとともに、より多くの人にご利用いただけるよう Instagram を新たに開設し、Facebook やメールマガジンと併せて複数の媒体による情報発信に努めた。

(詳細は資料編 p. 26-27 参照)

④ボランティア・市民活動情報の提供

区内外の市民団体や関係機関の資料を収集し、ボランティアセンター・ボランティアビューローに掲示・展示コーナーを設けて、市民団体や地域活動等の情報提供を行った。

ボランティアセンターにおいては展示コーナーのリニューアルを行い、2024 年 12 月からロビーに掲示可能なスペースを設けた。2024 年度においては、活動団体 2 団体の PR、協会と区の連携事業 1 事業の PR を行った。

【新規】



(3) 成果と今後の課題

ボランティア情報誌「セボネ」は、発行 20 周年を契機に実施したリニューアルが好評を得ており、その後も読者の意見をもとに継続的改善を図っている。限られた人数の編集委員を中心に取材、写真撮影、編集、発送等を行っており、2024 年度から発送業務の一部を印刷と併せて委託する業務改善を行った。今後は、編集委員の体制強化が必要である。

情報の受発信について、紙媒体とWEBの双方の利点を活かして引き続き効果的な展開を図り、従前からの読者の利便性と新たな読者の拡大につながる方向で進める必要がある。

4 地域連携促進事業

(1) 重点目標

- ・ボランティアセンター、ボランティアビューローが地域と連携することで、ボランティア協会の認知度を高める。
- ・全区、地域を対象とした事業に積極的に参加し個人、団体等と交流してボランティアセンター、ボランティアビューロー事業に活かす。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①他団体と連携した事業の開催、参加、出展

世田谷ボランティア協会が入居している複合施設「パーム下馬」の 2002 年開設を契機に、施設を地域の方に知っていただきつながりを持つ機会とする「おたがいさまフェスタ」、地域障害者相談支援センター「ぽーと せたがや」を中心に、地元商店街と連携して、世田谷地域で働く人、暮らす人、学ぶ人、ボランティアしている人など、様々な人たちが集い知り合える場とする「ごきんじょ市」な

どを開催した。

このほか、他団体と連携した事業を開催するとともに、区内で開催される様々な催し・イベントに参加して活動案内を行い、協会の認知度を高めるとともにバザー出展し自主財源の確保を図った。

(詳細は資料編 p. 29-30 参照)



②会議室、機材の提供

ボランティアセンター、ボランティアビューロー（砵を除く）においてボランティア、区民・団体の活動の支援として会議室や機材の提供等を行った。

ボランティアセンターの大規模改修を契機に会議室利用等の規程を整備し、これに基づき、ボランティアセンター、ボランティアビューローの会議室利用登録等の案内を行った。

ボランティアセンターにおいては、Wi-Fi 接続条件の改善を図って利用団体の利便性を高めた。

(利用実績等は資料編 p. 28 参照)

(3) 成果と今後の課題

地域に根ざしたボランティア・市民活動団体等との連携と交流の推進を図ってきたこの間の取り組みを、区内 5 地域に整備された活動拠点を中心にさらに進めていくことが重要である。ボランティアセンターにおけるWi-Fi 接続条件の改善や機材の更新、北沢ボランティアビューローにおける備品更新が利用団体から好評を得ている。

こうした会議室や機材の使い勝手の向上を契機に、協会の認知度を高め、ボランティア団体の活動の場や地域の居場所として、より活用いただけるようにしていくことが重要である。

特に 2025 年度においては北沢ボランティアビューローの大規模改修工事(区施工)が予定されていることから、利用団体への説明や工事期間中の対応について他拠点との調整を図り、区と連携しながら万全を図っていく必要がある。

5 パートナシップ事業

(1) 重点目標

- ・世田谷ボランティア協会は中間支援組織としてボランティア団体、市民活動・NPO、行政、関係機関、企業等とのパートナーシップを構築する。
- ・地域の社会資源をネットワークし、ボランティア協会として地域ニーズを踏まえた事業を展開する。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①世田谷区市民活動支援会議（通称：ネッティ）への参加

ボランティア・市民活動を推進するため、世田谷区内の中間支援機関と行政が集まり、情報交換を行っている。5月16日の第1回会議、12月12日の第2回会議に参加するとともに、提案型協働事業交流会（7月12日開催 成城ホール）に世田谷区市民活動支援会議参加団体が出席して提案型協働事業実施団体・NPO等と交流の機会を設けた。

■参加団体・組織

世田谷区社会福祉協議会、世田谷ボランティア協会、せたがや文化財団(生活工房)、世田谷トラストまちづくり、国際ボランティア学生協会、共生会SHOWA(男女共同参画センターらぷらす)、世田谷区市民活動推進課（主催）

②世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営委員会準備会への参加

世田谷区は、新しい本庁舎等において、区内の様々な地域から訪れる区民がふれあい、交流できる場所として、区民交流スペース、広場、屋上庭園等、多様な区民利用・交流拠点施設の整備を令和8(2026)年度開設に向けて進めている。開設に向けて、運営における情報や課題を共有して改善策を話し合う事業運営委員会(仮称)を設けることとし、2024年度においてはこの準備会を設置した。

協会もこの準備会にオブザーバー委員として参加し、様々な提案を行った。【新規】

2024年12月26日 世田谷区立保健医療福祉総合プラザ、2025年3月25日 梅丘パークホール

③全国ボランティア推進団体会議への参画

全国ボランティア推進団体会議（通称：民ボラ）の幹事団体として、日頃から団体相互の顔の見える関係をつくるべく、企画立案や当日の運営に協力している。

8月10～11日に茨城県水戸市で開催された第41回会議に参加し、情報交換・意見交換を行った。

④せたがや学生ボランティアネットワーク運営支援

「せたがや学生ボランティアネットワーク」に参加している学生団体のニーズに応じ、世田谷区（市民活動推進課）と協働でボランティア活動のコーディネート継続して行い、ネットワーク会議の開催を支援した。

「せたがや学生ボランティアフォーラム」（11月30日 北沢タウンホール 参加学生：7大学13団体42名 一般来場者：53名）の開催を支援するとともに、ボランティア情報誌「セボネ」（2025年1月号）に特集記事を掲載した。（ネットワーク参加団体、会議開催実績等は資料編 p.31 参照）



⑤せたがや生涯現役ネットワークへの参加

区内約60の団体で構成する「せたがや生涯現役ネットワーク」に参加し、他団体との連携を図った。
(資料編 p.29 4. 地域連携促進事業 参照)

5月30日（木）総会（ひだまり友遊会館）

10月6日（日）生涯現役フェア（玉川せせらぎホール）

⑥東京ボランティア・市民活動センター（略称：TVAC）との連携

TVACが実施する研修への参加、都内ボランティアセンターが集う会議への参加、市民活動・NPO応援セミナー等開催時のTVACからの講師派遣等により、TVACをはじめとする関連機関相互のネットワークを強化し、職員のスキルアップを図った。

⑦世田谷区職員研修

世田谷区の採用1年目職員を対象とする「障害福祉体験」研修の実施を区から受託して実施した。「誰もが暮らしやすいまちを実現するために」をテーマに、NPO法人世田谷区視力障害者福祉協会、NPO法人世田谷区聴覚障害者協会の協力を得て、屋内外で車いす体験やアイマスク体験、小グループに分かれて研修生に向けた障害当事者講師からの講話、研修生同士でグループワークを実施した。

（詳細は資料編 p. 32 参照）

⑧視察・見学者、インターンシップの受け入れ

視察・見学を希望する個人・団体を受け入れ、活動を体験するなどのコーディネートを行うとともに、大学の依頼によりインターンシップとして学生の受け入れを行うなど、協会の多様な地域事業を学んでいただく機会とした。

（詳細は資料編 p. 32 参照）

⑨社会福祉法人世田谷ボランティア協会をささえる会への協力

社会福祉法人世田谷ボランティア協会をささえる会は1997年6月に発足以来、ボランティア協会を人的・資金的に支援する活動を行ってきた。2024年11月30日に開催した総会において位置づけを改め、ボランティア相互の人的交流を深める団体として再出発することとなった。

⑩各拠点における地域パートナーシップの取組み

（詳細は資料編 p. 33-34 参照）

拠点	連携する主な地域団体・会議体等	
世田谷	・世田谷区社会福祉法人地域公益活動協議会（せたがや公益協）	・世田谷地域ケア連絡会 ・三宿・池尻まちこま会
北沢	・梅丘地区見守りネットの会	
玉川	・発達障害・障害児サポート情報共有会 ・発達障害関連団体との連絡会 ・二子玉川100年懇話会	・用賀地区四者連携会議 ・地域ケア会議（用賀、二子玉川、深沢） ・社協運営委員会
砧	・ご近所フォーラム実行委員会 ・地区版地域ケア会議	・砧地域ケア連絡会
烏山	・絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆ ・烏山エリア自立支援協議会	・烏山地域版地域ケア会議 ・烏山合同包括ケア会議（いきいき講座） ・要保護児童支援協議会

（3）成果と今後の課題

参加と協働による政策、施策の展開を区政運営の基盤とし、区民の主体的な参加への意欲を引き出すコミュニティづくりにつなげることが「世田谷区基本計画」の基本方針の一つに掲げられ、2024年度から8年間の計画期間がスタートした。

このことも踏まえ、協会は中間支援組織として、ボランティア団体、市民活動・NPO、行政・関係機関や企業等とのパートナーシップをさらに進めていく必要がある。

6 コミュニティビジネス事業

(1) 重点目標

- ・生活の中にリユース・リサイクル活動を意識づけ、身近なところから活動に参加できる機会を提供する。
- ・活動で得た収入を活動資金とし、自主財源の確保に努める。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①リサイクル市

リユース・リサイクル意識の向上と推進、ボランティア活動機会の提供、自主財源の確保を目的に、バザー品の仕分け、値付け等にボランティアグループ「てんとう虫」の協力を得てボランティアセンターにてバザーを実施した。

初の取組みとして「おたがいさまフェスタ」と同日の4月27日(日)に「リサイクル市」を、「極楽フェス」と同日の12月14日(土)に「こどもバザー」を開催。2025年3月22日(土)には通常規模に復した「リサイクル市」を開催した。
(詳細は資料編 p. 29-30 参照)

②烏山もったいないバザール

世田谷ボランティア協会の活動 PR、事業参加団体と地域との交流の場、自主財源の確保を目的に5月19日(日)烏山区民センター前広場にて開催した。イベントには20団体6バンドが参加し、出店者同士、来場者と出店者の交流が生まれ、非常に充実したイベントとなった。

(詳細は資料編 p. 29 参照)



③各拠点におけるコミュニティビジネスの取組み

(詳細は資料編 p. 29-30 参照)

拠点	イベント
北沢	・手作り市 ・ビューロー秋バザー ・お得市
玉川	・玉川ボランティアビューローバザー ・玉川ボランティアビューローバザー後売り
烏山	・烏山もったいないバザール ・烏山地域蘆花まつり

(3) 成果と今後の課題

2024年度、協会の規程を整備してクレジットカードからの寄付を受領することを可能とした。このことを契機に、新たな取組みとして、幅広く寄付を呼び掛ける世田谷ボランティアセンター専用のフライヤーを2025年3月に作成した。

協会の活動継続には運営を支える資金確保も重要であり、2023年度から徐々に再開してきたコミュニティビジネス事業について、今後とも工夫を加えながら事業を進めていくことが重要である。



7 せたがやチャイルドラインの取組み

(1) 重点目標

- ・広報物の工夫やイベントの参加を通じ、子どもが安心して話ができることを広く伝える。
- ・子ども自身が考え、解決していけるよう子どもの気持ちを受けとめる活動の継続と人材育成を図る。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①子どもの声を聴く活動

18才までの子どもがかけける専用電話「せたがやチャイルドライン」事業を実施した。

ア. せたがやチャイルドラインの実施

水曜日と土曜日の16時～21時に、専用回線の有料ダイヤル(03-3412-4747)とフリーダイヤル(0120-99-7777)の2回線で、ボランティア(受け手)が子どもからの電話を受けた。

オンラインチャットで子どもの声を受けとめる活動も月2～3回(第2、3、5金曜日)実施した。
(着信件数等は資料編 p. 35 参照)

イ. 子どもたちへの広報

「せたがやチャイルドライン」の存在を子どもたちに伝えるため、せたがやチャイルドラインオリジナルで作成した広報紙「ちゃ～ら」を新学期に、カードを夏休み前のタイミングに合わせ、区立小中学校90校、国立・私立の小中学校・高校、ほっとスクール、フリースクール、図書館等を通して区内の全児童生徒に配布(約7万部)した。

②参加の輪を広げる活動

せたがやチャイルドラインを地域の多くの大人に知っていただき、チャイルドラインの活動を支援してもらえよう様々な関わりの場や機会を提供した。

ア. チャイルドラインサポーター活動の推進

- ・発送作業、ものづくりや値付けなどさまざまなボランティア活動への参加の機会をつくり、電話の受け手以外にもチャイルドラインを応援する活動を推進した。

※ものづくりボランティア 4グループ、個人6名

- ・ニュースレターを通じて寄付の呼びかけを行い、せたがやチャイルドライン応援団活動として、寄付者の拡大を図った(寄付者には返礼品を送付)。

イ. リーフレットやニュースレターの発行・配布

チャイルドラインの活動を報告するためのニュースレターを2024年12月に発行し、地域連携事業やイベント等の際に配布した。

協会全体としてクレジットカードからの寄付も可能としたことを契機に、新たな取組みとして幅広く寄付を呼び掛けるせたがやチャイルドライン専用のフライヤーを2025年3月に作成した。



③人材養成と研究活動

人材の育成と活動の充実に向け、子どもの声を聴く受け手を養成するとともに、受け手や支え手のスキルアップに向けた研修等を行った。
(開催実績等は資料編p.36参照)

④ネットワーキング活動

子どものためのネットワーク構築に向け、全国及び近隣の関係機関とのパートナーシップを深めた。

ア. 全国のチャイルドラインとの協働

全国フォーラムやキャンペーンへの参加、認定NPO法人チャイルドライン支援センターや全国各地のチャイルドラインとの情報交換、協働を図った。

イ. チャイルドライン東京ネットワークへの参画

首都圏でチャイルドラインの活動を行う団体との連携を図り、共同で実施するチャイルドラインカード配布事業「東京キャンペーン」に参加した。

ウ. 関係機関との連携

ホームページや区民まつり等の機会を活用して、関心のある個人や各種関係機関との連携を図った。

・世田谷区立用賀中学校校内研修

用賀中学校の依頼を受け、「聴く」をテーマにした講義とグループワークを実施した。用賀の学び舎（用賀小学校、京西小学校）からの参加もあわせ、8名の教員に参加いただいた。

8月29日(木) 用賀中学校

・おでかけひろば「きぬたまの家」内部研修

世田谷区地域子育て支援コーディネーターのおでかけひろば「きぬたまの家」より内部研修の依頼を受けた。「聴く」をテーマにした講義とグループを実施した。8名の相談員に参加いただいた。

10月3日(木) 世田谷ボランティアセンター会議室

⑤組織の運営活動

運営委員会、講座検討委員会、メンバー全員による「全体会議」など各種会議を開催し、せたがやチャイルドラインの組織運営を担った。
(開催実績等は資料編p.37参照)

2024年2月から運営体制を改め、持続可能な運営体制を整備した。2024年度はメンバー全員にアンケートを行った。アンケート結果をもとに次回(2025年)の全体会議で話し合うこととしている。

⑥企画・販売活動

「つくる」「売る」「買う」、様々なボランティアの協力で、バザーや手づくり品の販売を行い、資金確保に努め、せたがやチャイルドラインの更なる周知を図った。

ア. チャイルドラインショップの運営

世田谷ボランティアセンター内のチャイルドライン常設ショップ、世田谷美術館、世田谷文学館のミュージアムショップ、世田谷パブリックシアターでの主催公演において、手づくりボランティアによるグッズの販売を行った。

また、世田谷ボランティアセンターのチャイルドライン常設ショップでは、売り上げの一部を寄付いただいている福岡県八女市の物産品を販売するコーナーを設けている。

イ. 各種イベントへのバザー出店

区内で開催されるイベントに出店し、せたがやチャイルドラインの活動を広報するとともに、事業資金の確保に努めた。

おたがいさまフェスタ(4月)、烏山もったいないバザール(5月)、区民まつり(8月)、雑居まつり(10月)、ごきんじょ市(11月)のイベントに出店した。

(3) 成果と今後の課題

子どもを取り巻く状況が依然として厳しいことを踏まえ、2023年度に行った運営改善の成果を定着させ、電話とオンラインチャットの二つのツールによる子どもの声を聴く活動を引き続き着実に推進することが重要である。子どもから寄せられる声が電話からオンラインチャットにシフトする傾向がみられることから、これに対応して2024年度にオンラインチャット養成研修を行い、オンラインチャットを受ける体制充実を図った。2025年度は、コロナ禍に実施を見送っていた支え手合宿研修を再開させ、支え手としてのかわりの更なるスキルアップをめざしていく。

8 職員体制

(1) ボランティア・市民活動推進第1部 職員体制

	常勤	臨時
部長	1名	
世田谷ボランティアセンター	3名	11名(兼務2名)
北沢ボランティアビューロー		5名
玉川ボランティアビューロー		6名
砧ボランティアビューロー準備室		4名
烏山ボランティアビューロー		4名

(2025年3月31日現在)

(2) 職員研修

①内部研修等の実施・参加

従来の研修を「会議」「課題の共有・ふりかえり」「研修」の3区分に整理することを年度当初の会議で確認し、ボランティア相談やコーディネート等の業務に必要な知識やスキルを習得するため必要な研修等を行った。(詳細は資料編p.37参照)

協会の個人情報保護規程改定を契機に「情報セキュリティと個人情報保護」をテーマにセンター、ビューロー単位でのレクチャーを8月に実施した。さらに、協会の文書管理規程改定を契機に、文書の管理方法や保存期間について11月にセンター、ビューローへの改めての周知を図った。

②外部研修への参加

ボランティアコーディネーションや福祉サービスに関する研修等に参加し、情報収集や関係機関との連携を図った。

***ボランティア・市民活動推進第1部の実績データは以降に掲載**

■ボランティア相談受付件数（2024 年度実績）

①世田谷ボランティアセンター

		4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
ボランティアしたい	計	56	29	105	21	211
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	1	1	0	0	2
	子どもサポート(学習支援以外)	2	0	1	1	4
	傾聴	2	3	5	3	13
	生活サポート	5	3	5	2	15
	団体・グループ支援	2	0	1	0	3
	その他	3	0	0	0	3
	計	15	7	12	6	40
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	0	0	2	0	2
	情報求む	10	1	0	8	19
	その他	2	0	0	2	4
	計	12	1	2	10	25

②北沢ボランティアビューロー

		4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
ボランティアしたい	計	22	7	63	5	97
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	1	0	0	0	1
	子どもサポート(学習支援以外)	1	2	0	0	3
	傾聴	5	0	1	0	6
	生活サポート	8	2	1	5	16
	団体・グループ支援	0	1	0	1	2
	その他	2	0	0	0	2
	計	17	5	2	6	30
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	3	5	94	5	107
	情報求む	3	2	0	4	9
	その他	0	3	0	0	3
	計	6	10	94	9	119

■ボランティア相談受付件数（2024 年度実績）

③玉川ボランティアビューロー

		4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
ボランティアしたい	計	29	45	16	25	115
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	4	1	1	0	6
	子どもサポート(学習支援以外)	4	6	8	2	20
	傾聴	2	4	4	1	11
	生活サポート	4	5	3	1	13
	団体・グループ支援	3	0	3	1	7
	その他	2	1	1	1	5
	計	19	17	20	6	62
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	0	0	0	0	0
	情報求む	1	0	4	0	5
	その他	5	1	1	0	7
	計	6	1	5	0	12

④砧ボランティアビューロー準備室

		4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
ボランティアしたい	計	12	11	25	17	65
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	1	0	1	0	2
	子どもサポート(学習支援以外)	3	2	0	1	6
	傾聴	3	1	10	3	17
	生活サポート	6	1	2	3	12
	団体・グループ支援	2	0	0	1	3
	その他	0	0	2	1	3
	計	15	4	15	9	43
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	1	0	1
	物品提供	0	0	0	0	0
	情報求む	27	16	22	31	96
	その他	4	0	4	0	8
	計	31	16	27	31	105

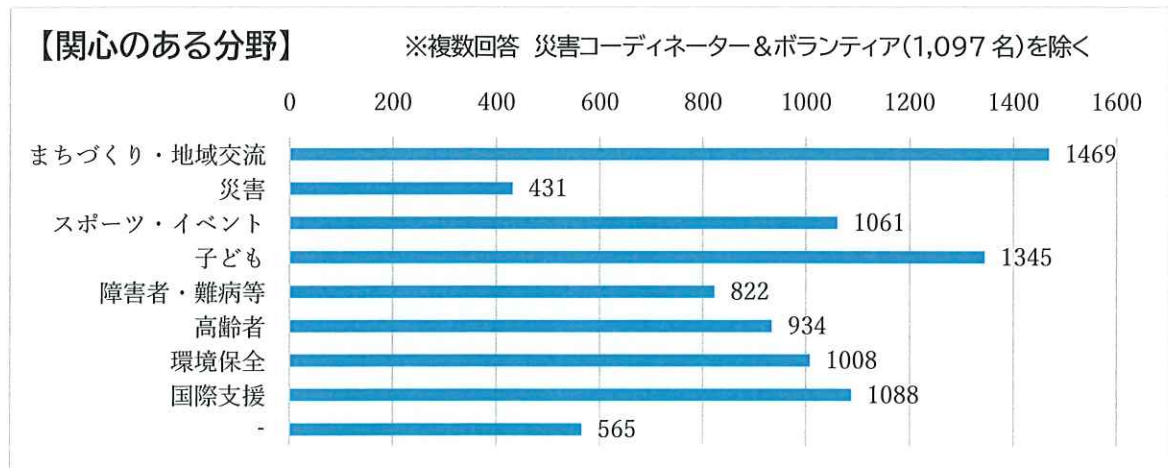
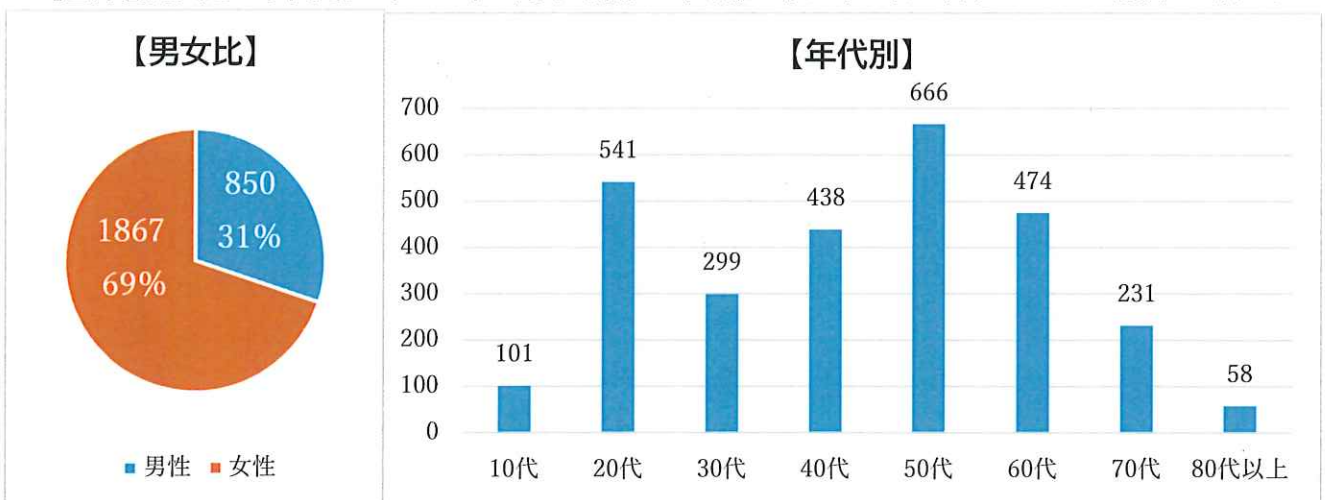
■ボランティア相談受付件数（2024 年度実績）

⑤烏山ボランティアビューロー

		4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
ボランティアしたい	計	38	23	14	20	95
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	1	2	0	0	3
	子どもサポート(学習支援以外)	2	2	1	0	5
	傾聴	5	2	1	0	8
	生活サポート	10	3	6	3	22
	団体・グループ支援	5	6	3	2	16
	その他	1	0	0	0	1
	計	24	15	11	5	55
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	0	0	0	0	0
	情報求む	3	3	8	8	22
	その他	0	0	0	3	3
	計	3	3	8	11	25

■おたがいさま bank

【登録者男女比・年代比】（2025 年 3 月末時点）＊性自認・誕生年は本人申告によるため総数は一致しない



■AI システムによるマッチングサイト（世田谷版G B E R）（2024 年度実績）

【年代別登録者数】計 661 名（累計）

年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	不明	計
登録者数	30	90	104	105	166	100	72	9	1	10	687

【ボランティア募集案件及びマッチング件数】（募集記事掲載時点でカウント）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
募集案件数	19	27	9	16	10	18	17	9	10	14	12	9	170
マッチング件数	1	2	8	7	3	2	6	6	0	1	5	4	45

【区民・事業者向けセミナー】

「ボランティア活動をサポートします！セミナー&相談会」

- ・実施日・場所：6 月 15 日(土) 梅丘パークホール
- ・参加者：21 名
- ・講師：檜山 敦 氏(東京大学先端科学技術研究センター特任教授)
近藤浩紀（世田谷ボランティア協会）

■市民活動・NPO相談件数（2024 年度実績）

【団体種類別件数】

月	任意団体	NPO法人	その他	個人	合計
4-6	8	5	0	7	20
7-9	4	4	0	4	12
10-12	7	1	0	4	12
1-3	8	6	1	6	21
計	27	16	1	21	65

【相談内容種別件数】

ア 一般相談

月	任意団体の 立ち上げ・運営	NPO法人の 設立	NPO法人の 運営	認定NPO	合計
4-6	11	5	3	0	19
7-9	5	1	3	0	9
10-12	6	1	2	0	9
1-3	6	5	6	0	17
計	28	12	14	0	54

イ 専門相談

月	運営問合せ (法務)	運営問合せ (会計・税務)	運営問合せ (労務)	運営実務 (法務)	運営実務 (会計・税務)	運営実務 (労務)	合計
4-6	1	0	0	0	0	0	1
7-9	0	0	2	0	0	1	3
10-12	1	0	0	1	0	1	3
1-3	0	0	0	1	1	1	3
計	2	0	2	2	1	3	10

■企業のフードドライブ活動と活動団体のマッチング協力（2024 年度実績）

期間	回収回数	回収量	内容
2024 年 4 月～9 月	25 回	192.8kg	お菓子、レトルト食品、缶詰等
10 月～2025 年 3 月	30 回	236.6kg	お菓子、レトルト食品、缶詰等
計	55 回	429.4kg	

（集計は半期単位で実施）

【関係者及び役割分担】

関係者	主な役割
株式会社 ファミリーマート	・ 指定の店舗にボックスを設け、家庭で余剰になった食品を受付、保管 ・ 団体へ食品を引き渡し（月 1 回程度）
世田谷 ボランティア協会	・ こども食堂などを展開している団体を紹介 ・ 団体の実施報告書を取りまとめ、ファミリーマート本部に提出
団体＊ （こども食堂等）	・ 食品を指定のファミリーマート店舗で受取り、活動に有効活用 ・ 実施状況を報告（半年に 1 回程度）

＊せたがや子どもパル虹、ぬくぬくハウス、コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ

■市民活動・NPO相談事業（2024 年度実績）

【市民活動・NPO応援セミナー】

講師 森 玲子 氏（東京ボランティア・市民活動センター相談員）

実施日・場所	テーマ・内容	参加者数
9 月 26 日 成城ホール集会室	「市民活動のお金 - 活動・運営資金 キホンのキ -」	27 名
3 月 8 日 三茶しゃれなあどホール	「学ぼう！活動資金の調達と助成金のこと」	19 名

■世田谷区提案型協働事業（2024 年度実績）

【年間スケジュール】

- ・ エントリー受付、事前相談（2024 年 2 月 15 日～3 月 26 日）
- ・ 団体との事前協議（4 月 1～19 日）
- ・ 団体の提案書作成サポートと受付（4 月 22～26 日）。5 団体から提案書提出
- ・ 一次選定会（5 月 15 日）、二次選定会（5 月 22 日）開催。4 団体を選定
- ・ 事務連絡会（6 月 26 日）、団体と区との協定書締結のサポート
- ・ 交流会開催（7 月 12 日 成城ホール）
- ・ 提案型協働事業ホームページ（協会ホームページ内）掲載（7 月末）
- ・ 団体が実施するイベントの広報、見学、選定委員への参加呼びかけ
- ・ 成果報告会開催（2025 年 1 月 29 日）

■傾聴ボランティア（2024 年度実績）

【講座】

会場	実施日	参加者数
玉川ボランティアビューロー	6 月 19 日、6 月 26 日、7 月 3 日、10 日、17 日 (全 5 回)	延 64 名
成城まちづくりセンター	9 月 25 日、10 月 2 日、16 日、23 日、30 日 (全 5 回)	延 87 名

【学習会】

会場	実施日	参加者数
玉川ボランティアビューロー	5 月 22 日、7 月 24 日、9 月 25 日、11 月 27 日 (全 4 回)	延 29 名
成城まちづくりセンター	5 月 14 日、15 日、7 月 9 日、24 日、9 月 10 日、 18 日、11 月 12 日、20 日 (全 8 回)	延 37 名

【交流会】

会場	実施日	参加者数
世田谷ボランティアセンター	2025 年 3 月 19 日	19 名

■ボランティアビューローの取組み

【北沢ボランティアビューロー】

・はじめカフェ（ボランティアオリエンテーション）

開催日 3 月 21 日（参加者 2 名）

テーマ 「Toy 工房どんぐりを知っていますか？」

内容 活動グループの内容説明、実際の活動内容見学

参加者の声 Toy 工房どんぐりの活動に興味があり、活動グループに特化した企画がよかった

・ぱらっと

気軽に立ち寄れる地域の居場所にしてもらえるよう、使用済み切手の整理というちょっとしたボランティア活動を、出入り自由でできる場を設けた（月 2 回 事前申込制）。

月	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
延べ参加者数	37 名	31 名	34 名	19 名	121 名

・北沢ビューロー ご近所カフェ ～「こんにちは」を始めませんか～

地域の方々の憩いの場となることを目指し、思い出の歌を一緒に歌う、ボッチャ体験など月替わりのお楽しみ企画を実施し、気軽に館内に入ってもらえるオープンスペースを設けた（月 1 回）。

月	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
参加者数	10 名	20 名	38 名	19 名	87 名

【北沢ボランティアビューロー（続）】

・梅丘てしごとカフェ

地域の人たちに特技や興味を活かしたボランティア活動への参加の場を提供し、参加者のアイデアやデザインでバッグや布小物等のオリジナルグッズを作成した(月2回)。

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
参加者数	21名	20名	17名	22名	80名
販売額	8,900円	3,600円	4,800円	85,000円*	102,300円

*2月16日 梅まつり出店を含む

・認知症マフ（ケアマフ）をつくろう

広く認知症マフを知ってもらうことを目標に月1回開催し、参加者同士の交流を図る。また将来的には自主グループとして活動ができるようにしていく。

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
延べ参加者数	17名	20名	37名	37名	111名

【玉川ボランティアビューロー】

・発達オンラインカフェ「かたりば」

発達障害のある方の居場所づくりとボランティア育成のため、月1回オンラインで交流する場を運営した。事業は2024年度で終了し、2025年度よりボランティアグループとして独立予定。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	4名	5名	4名	6名	5名	4名	5名	8名	6名	6名	8名	7名	68名
ボランティア	5名	6名	5名	5名	7名	6名	5名	5名	6名	6名	4名	7名	67名

・チーム子どもサポート

子どもへの個別支援ニーズに対応するボランティアの育成を目的に、勉強会の実施や活動のフォロー、関連機関との関係づくりを図った。

若者編「チーム子どもサポート」(30才未満)は玉川ボランティアビューローと北沢ボランティアビューローにて4回、シニア編「子どもサポート フォローの会」(年齢制限なし)は玉川ボランティアビューローにて2回実施した。

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
若者編	11名	実施なし	7名	実施なし	18名
シニア編	中止	3名	4名	学習会を代替	7名

・遊ぼう会

支援の必要な子どもとご家族の居場所、ボランティアが障害児(者)とかかわるきっかけやスキルアップの機会として、外遊び、臨床美術、ジェスチャーゲームや、夏、ハロウィン、クリスマス、お正月など季節ごとの遊びを、ボランティアグループ『ういきゃん』と共催で企画・実施した(月1回)。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	8名	4名	6名	-	23名	13名	14名	5名	18名	11名	-	10名	112名
ボランティア	19名	5名	5名	-	17名	2名	4名	3名	10名	4名	-	6名	75名

【玉川ボランティアビューロー（続）】

・子どもに寄り添うボランティア講座（学習サポート編）

子どもと学ぶ楽しさを体験し、学びの喜びを分かち合う時間を共有するボランティアを養成する目的で、連続講座とボランティアオリエンテーションを区と共催で実施した(参加者 12 名)。

日程	主な内容	協力者
6月6日(木) 13:30-16:30	世田谷区の障害児支援について ボランティアについて	世田谷区障害保健福祉課 高野 岳誌氏
6月20日(木) 13:30-16:30	講義とワーク 「発達障がいってなに？」	NPO 法人東京都自閉症協会副理事長 尾崎 ミオ氏
6月27日(木) 13:30-16:30	講義とワーク 「子どもとかかわるときに」	世田谷区教育委員会教育相談課 教育相談専門指導員 森田 規子氏
7月4日(木) 13:30-16:30	ボランティアオリエンテーション	学習支援のボランティア活動経験者

・子どもサポート講座フォローアップ

子どもとかかわるボランティア講座の修了者、また、すでに子どものサポートを行っているボランティアを対象とした学習会。今回は「安心ネットせたがや」の協力を得て、知的障害児への理解を深めるための講義と疑似体験を 2025 年 2 月 20 日に実施した。参加者 9 名。

・玉川ボラカフェ

ボランティア活動に興味はあるが、なかなか一歩が踏み出せない人や、地域と関わる機会がほしい人のために居場所を提供した。作ったものは、ビューローの常設バザーで販売。

4 月は花みず木フェスティバル、11 月はケベック祭（カトリック溝ノ口教会）で作品販売と子ども向けのワークショップを開催した。

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
参加者数	20 名	22 名	21 名	19 名	82 名
販売額	6,900 円	12,000 円	33,000 円	10,550 円	62,450 円

・利用者交流会

玉川ボランティアビューローで活動している方たちが交流することで、相互理解を深め、刺激を受け合い、ささえ合いの輪を広げることが目標に 3 月 28 日に開催した。

参加者 18 団体 30 名

【砧ボランティアビューロー準備室】

・おしゃべりサロン「きぬたまり」

地域での孤立・孤独解消を目的に、誰でも参加できる場として、人と話す機会の少ない人や誰かと話したい人が集う交流を行い、傾聴ボランティアの実践の場としてボランティアが参加する機会とした（毎月第2水曜日午後 実施場所 成城まちづくりセンター活動フロア）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日	10日	8日	12日	10日	休み	11日	9日	13日	休み	8日	12日	12日	
参加者	6名	5名	6名	4名	0名	0名	3名	3名	0名	5名	5名	5名	42名

・傾聴出前講座

ボランティア活動グループや団体からの依頼を受け、傾聴についての講義、ロールプレイなどを行った。

実施日	内容	実施場所	参加者数
3月12日 (水)	体験を通して学ぶ、暮らしの中の傾聴 「傾聴（話す・聴く）はこころのふれあい」	世田谷区発達障害・療育センター「げんき」会議室	19名

【烏山ボランティアビューロー】

・はじめてのボランティア講座

ボランティアをしたいけれども、何からどう始めたらよいか迷っている人を対象に、初歩的な介助の方法や当事者の声を聞いて、一歩を踏み出してもらうための体験型講座を行った。

開催日：6月15日 参加者：4名

内 容：当事者（車いすユーザー）の声、車いすでの介助・乗車体験

・ボランティア交流会

ビューローに登録のあるボランティアやこれから活動を始めたいと考えている人を対象に、情報交換や活動を通じての疑問点や課題を共有し、次の活動への意欲の醸成を図った。

開催日：11月16日 参加者：7名

内 容：「ボランティア活動における感染症対策について」（講義）、情報交換など

■夏のボランティア体験プログラム「ナツボラ」（2024 年度実績）

- ・対 象：区内に在住・在学の中・高・大学生及び 30 歳位までの青少年
- ・活動場所：区内福祉施設、NPO 団体、ボランティアグループ 等

	実施日	内 容
受付、オリエンテーション	7/14、25、26、27	受付、オリエンテーション 会場：世田谷ボランティアセンター 参加者数 178 名、参加延べ件数 190 名、 内訳（中学生 125 名、高校生 51 名、大学生 1 名、その他 1 名）
ボランティア体験活動	7/20～8/31	活動先：86 か所 (高齢者関係 15、障害者関係 23、子ども関係 41、その他 7)

(参考) 2023 年度参加者数 198 名、参加延べ件数 231 名 活動先 63 か所

■小学生向けプログラム「ナツボラ・ジュニア」（2024 年度実績）

- ・対 象：区内に在住・在学の小学生とその家族
- ・活動場所：区内福祉施設、NPO 団体、ボランティアグループ 等
- ・実施時期：7 月下旬～8 月末

拠点	参加者数	協力団体
世田谷ボランティアセンター	35 名	手話サークル「輪の会」、グループ ippo(地域猫活動団体)、下馬福祉工房、ダイチの力(自然栽培普及活動団体)
北沢ボランティアビューロー	32 名	JCA 日本語月曜クラス、JCA 日本語木曜クラス、グルボ 6(セイス)、てんとうむし、レレーズ、世田谷録音奉仕グループひびき
玉川ボランティアビューロー	43 名	博水の郷(高齢者施設)、ふたこ de ネット、R. S. の会(リーディングサービス)、二子おもちゃ図書館ぽっぽ、エリ・サークル、世田谷区視力障害者福祉協会、
砧ボランティアビューロー準備室	19 名	砧ホーム(高齢者施設)、砧愛の園(高齢者施設)、野川をキレイにし隊、祖師谷公園サービスセンター、祖師谷公園ハーブ木曜友の会、祖師谷公園友の会ポピークラブ
烏山ボランティアビューロー	21 名	烏山福祉作業所、ぶんぶくテラマチ、アクティブかたらい
計	150 名	25 団体

■総合学習・奉仕体験活動等コーディネート（2024 年度実績）

学校	実施日	内容	参加者数
昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科 1 年生	4 月 24 日(水)	ボランティアマナーとコミュニケーションについて	74 名
産業能率大学 経営学部	10 月 18 日(金)	社会貢献とボランティア活動	99 名
計	2 回		173 名

■ボランティア情報誌「セボネ」

【編集委員会】

編集委員(敬称略)	星野 弥生、佐藤 研資、市川 徹、花田 朋美、 松下 洋章、近藤 浩紀、中部 香世、鈴木 純子
編集会議開催日	2024年4月9日、5月7日、6月4日、7月5日、9月6日、10月4日、 11月9日、12月6日、2025年1月7日、2月4日、3月4日

【「セボネ」発行】(2024年度実績)

発行月	誌面内容
4月号 イラスト 降雨	★特集：セボネ20周年！ リニューアルします！ ★せたがや災害ボランティアセンターレポート：令和6年能登半島地震被災地支援 ★烏山ボランティアビューロー開設1周年！
5月号	★特集：セボネ20周年記念！ セボネ座談会開催 ★まちの市民力!!：「笑恵館」の10年目～みんなの家の次なる一歩～ ★せたがや災害ボランティアセンターレポート： 能登半島地震被災地支援ボランティア 穴水町で活動開始 ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
6月号	★特集：神宮外苑のイチョウから世田谷のみどりを考える ★まちの市民力!!：一般社団法人マター・オブ・トラスト・ジャパン ★せたがや災害ボランティアセンターレポート： 能登半島地震被災地支援ボランティア 引き続き穴水町で活動 ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
7月号	★特集：成城の100年を考える ★まちの市民力!!：支えあう「こぐまの会」 ★せたがや災害ボランティアセンターレポート： 穴水町災害ボランティアセンターの運営を支援しています ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
8月号	★特集：「プーラビダ」の国 コスタリカ自然探訪 ★まちの市民力!!：学び舎トーカ ～好きを究める新時代の学び舎～ ★せたがや災害ボランティアセンターレポート：能登半島地震被災地で世田谷のコー ディネーターがボランティアセンター運営に取り組んでいます ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
9月号	★特集：世田谷をビンゴ片手にボランティアツアー ★せたがやキラリ人：赤堀 仁紀さん ★せたがや災害ボランティアセンターレポート： 能登半島地震被災地での災害ボランティア活動を続けています ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
10月号 災害特集号	★特集：能登半島地震被災地支援ボランティア活動と世田谷のこれから ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
11月号	★特集：「世田谷区手話言語条例」と「東京2025デフリンピック」 ★まちの市民力：小さなカルチャーセンター～publico（パブリコ）～ ★せたがやキラリ人：井上 文さん ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ

■ボランティア情報誌「セボネ」

発行月	誌面内容
2024 年 12 月号	★特集：2024年度ナツボラ&ナツボラ・ジュニアレポート ★せたがやキラリ人：演劇を教育現場に！照屋洋さん ★せたがや災害ボランティアセンターレポート：能登半島地震被災地支援のこれまで、そしてこれから ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ
2025 年 1 月号	★特集：せたがや学生ボランティアフォーラムin 北沢タウンホール 開催 ★～新たなスタート～世田谷ボランティア協会をささえる会 ★せたがやキラリ人：「食」で地域と人をつなぐ～遠藤絵美さん～ ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせ&ミニレポート「第8回 ごきんじょ市」を開催しました！
2 月号	★特集：NPO法人せたがや子育てネット法人化20年を振り返って ★まちの市民力：～教育を市民の手に！～世田谷の教育を考える会 ★せたがやキラリ人：～気負わないボランティア～小林正紀さん ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座などお知らせなど
3 月号	★特集：チャイルドライン こどもへの想いと未来への希望 ★まちの市民力：阪神淡路大震災から30年 世田谷で『神戸をわすれない』 ★せたがや災害ボランティアセンター：防災シンポジウム「マンション防災への取り組み」開催 ★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ&<ミニレポート>東京さぎそうライオンズクラブ協力協定締結、ご寄付のお礼

■電子媒体を活用した情報発信（2024 年度実績）

【ホームページ】

※2023 年 7-9 月は一部推計値を含む

月	投稿数		閲覧数		
	2024 年度	前年度	2024 年度	前年度	前年比
4-6	89	79	125,050	127,838	2%減
7-9	63	72	121,414	126,932	4%減
10-12	81	87	96,786	88,180	9%増
1-3	70	63	99,156	98,320	1%増
計	303	301	442,406	441,270	0%増

【Facebook】

時点	フォロワー数		閲覧数			
	世田谷ボラン ティア協会	せたがや災害ボラ ンティアセンター	ボランティア協会		災害ボランティアセンター	
			2024 年度	前年度	2024 年度	前年度
6 月 30 日	2,046	925	2,434	2,354	2,437	322
9 月 30 日	2,049	929	2,921	4,645	1,059	1,014
12 月 31 日	2,059	931	4,908	1,041	4,416	806
3 月 31 日	2,055	933	5,842	1,173	4,148	2,424
計			16,105	9,213	12,060	4,566

【Instagram】

※2023 年 12 月 28 日開設

月	フォロワー数		閲覧数		
	2024 年度	前年度	2024 年度	前年度	前年比
4-6	98	-	654	-	-
7-9	116	-	265	-	-
10-12	136	-	310	-	-
1-3	158	82	1,370	147	9.3 倍
計			2,599	147	-

■ボランティア情報サイト「おたがいさま bank」を活用した情報提供（2024 年度実績）

【新規登録者数】

月	新規登録者数	メールマガジン発行状況	*は臨時便
4-6	136 名	2024 年 4 月 3 日、5 月 2 日、*10 日、*28 日、*29 日、6 月 15 日	
7-9	91 名	7 月 16 日、*12 日、8 月 10 日、*13 日、*17 日、*24 日、9 月 14 日	
10-12	97 名	10 月 16 日、*29 日、11 月 14 日、15 日(14 日訂正版)、*27 日、12 月 4 日、*5 日	
1-3	114 名	2025 年 1 月 9 日、2 月 6 日、3 月 14 日、*26 日	
計	438 名	13 回 + 臨時便 11 回	

■会議室、機材の提供（2024 年度実績）

※人数・団体は延べ人数・団体数

①世田谷ボランティアセンター 場の提供実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	73 日	75 日	70 日	292 日
利用人数	2,855 名	2,301 名	2,942 名	3,256 名	11,354 名
利用団体	357 団体	179 団体	220 団体	218 団体	974 団体

世田谷ボランティアセンター機材の提供実績

器 材 名	件数（累計）
プロジェクター	23 件
スクリーン	20 件

②北沢ボランティアビューロー 場の提供実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	72 日	74 日	69 日	289 日
利用人数	2,196 名	1,723 名	2,040 名	1,905 名	7,864 名
利用団体	262 団体	214 団体	235 団体	222 団体	933 団体

③玉川ボランティアビューロー 場の提供実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	71 日	74 日	70 日	289 日
利用人数	2,194 名	1,756 名	1,964 名	1,940 名	7,854 名
利用団体	185 団体	165 団体	173 団体	174 団体	697 団体

④砧ボランティアビューロー準備室 開所実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	71 日	74 日	69 日	288 日

※会議室スペースがないため、会議室利用実績はない。

⑤烏山ボランティアビューロー 場の提供実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	72 日	73 日	69 日	288 日
利用人数	57 名	55 名	54 名	103 名	269 名
利用団体	15 団体	10 団体	10 団体	16 団体	51 団体

■他団体と連携した事業の開催、参加、出展（コミュニティビジネス事業含む）（2024年度実績）

事業名	日時・場所	内容・来場者の反応
おたがいさま フェスタ 2024	2024 年 4 月 27 日(土) ボランティア センター周辺	・下馬団地整備工事の進捗に伴い、地元の理解を得て団地集会所前の広場も会場として開催した。 ・能登半島地震をきっかけに地域の絆を深めることを目的に、防災イベント、バザー、ステージプログラム等を実施し、下馬 2 丁目北町会をはじめケアセンターふらっと、下馬福祉工房等、地元で活動する様々な団体と連携して、地域とボランティアをつなぎ、交流できる場となった。 ・ケーブルテレビの取材もあり、同時開催のリサイクル市とともに、多くの方に楽しんでいただくことができた
花みず木フェ スティバル	4 月 29 日(祝) 兵庫島公園	・玉川ボランティアビューローがブースを出展し、協会の活動PR等を行った。
烏山もったいな いバザール 2024	5 月 19 日(日) 烏山区民センタ ー前広場	・烏山地域を中心に活動している施設やボランティアグルー プが集まり、「もったいない」をテーマにバザーや手作り 品の販売を行った。 ・参加団体が増え、相互のつながりづくりにも寄与した。
居場所サミット	5 月 25 日(土) 生活工房	・玉川ボランティアビューロー事業「遊ぼう会」がブースを 出展（第1回より参加、今回は第4回）。大学生のボラン ティアが中心になって活動紹介等を行い、多くの団体との 交流の機会となった。
ふるさと区民 まつり	8 月 3 日(土)、 4 日(日) JRA 馬事公苑	・会場が JRA 馬事公苑に戻り、スライムづくり、せたがやチャ イルドラインの手作り品や福岡県八女市の物産販売を行 った。 ・夏のボランティア体験「ナツボラ」参加の中学生、大学 生、社会人など多くのボランティアの参加を得た。 ・酷暑の中、熱中症対策に留意しながら事故なく終えるこ うだったが、昨今の夏の気象条件を考慮すると、参加のあ り方について検討が必要である。
下馬 2 丁目北町 会盆踊り大会	8 月 3 日(土)、 4 日(日)こども のひろば公園	・ボランティアセンター地元の夏祭りに参加し、アクアビー ズすくいとソーセージの販売を行い、大変盛況だった。 ・地域の子どもたちにも当協会について知っていただく機会 となった。
生涯現役フェア	10 月 6 日(日) 玉川せせらぎホ ール	・生涯現役ネットワーク(ボランティア協会も一員)の会議に 参加するとともに、「生涯現役フェア」にブース出展し、 世田谷ボランティアセンター、玉川ボランティアビューロ ーの活動PR等を行った。
雑居まつり	10 月 13 日(日) 羽根木公園	・協会PRコーナー、スライムづくり、チャイルドラインの 手作り品や福岡県八女市の物産販売を行った。 ・せたがや災害ボランティアセンターが前年度に続いてマン ホールトイレの実演と防災クイズを行い、好評を博した。 ・実行委員会に参加し、多様なボランティア・市民活動団体 との連携の機会ともなった。

■他団体と連携した事業の開催、参加、出展（コミュニティビジネス事業含む）（2024年度実績）

事業名	日時・場所	内容・来場者の反応
ごきんじょ市	11月17日(日) 三茶ふれあい広場	- 福祉事業部と協働して実行委員会に参加し、大学生などのボランティアや福祉施設等のコーディネートを行った。 - 当日はごきんじょ情報コーナー(協会PR)やせたがや災害ボランティアセンターの防災クイズ、チャイルドラインの手作り品や八女の物産品販売を行った。
烏山地域 蘆花まつり	10月27日(日) 都立蘆花恒春園	絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆の一員として、烏山地域最大の地域イベントである蘆花まつりにブース出展し、烏山ボランティアビューローの周知と協会の活動PRを行った。
極楽フェス	12月14日(土) ボランティアセンター及び周辺施設	- 近隣の社会福祉法人の施設と世田谷パブリックシアターとの合同でイベントを行い、各施設をスタンプラリーやちんどん風パレードでめぐること、各施設を知ってもらう機会となった。 「こどもバザー」を同時開催するとともに、大学生や社会人ボランティアのコーディネートを行った。
ポロ市	2025年 1月15日(水) 16日(木) ポロ市通り	1月のポロ市に参加し、代官屋敷前(ポロ市通り中央)のブースで、手づくり品や中古衣料など雑貨を販売するとともに協会PRを行った。 - 今回から規模を縮小して参加した。持続可能性の観点から今後も、イベント参加規模の適正化を検討する必要がある
チームささえあい用賀座談会	1月16日(木) 用賀まちづくりセンター	- 用賀地区四者連携会議の地区課題解決に向けた事業の一環として、ボランティアをするきっかけづくりと活動中のボランティアの交流を目的とした座談会が開催された。 - 玉川ボランティアビューローは会議の参加メンバーとして課題解決の検討、座談会の企画・運営に参画した。
梅まつり	2月16日(日) 羽根木公園	北沢ボランティアビューローの「てしごとカフェ」の手作り品を販売するとともに、協会PRを行った。
二子玉川ボランティア座談会	3月11日(火) 二子玉川まちづくりセンター	- 二子玉川あんしんすこやかセンター、社協、ビューローの三者連携で、ボランティアをするきっかけづくりと活動中のボランティアの交流を目的とした座談会が開催された。 - 玉川ボランティアビューローは会議の参加メンバーとして課題解決の検討、座談会の企画・運営に参加した。
リサイクル市	3月22日(土) ボランティアセンター	- コロナ禍以降で初めて、人数制限や入替制などをとらない形でのフル開催となった。 - 提供品の回収や仕分け、当日の受付や誘導対応などにボランティア団体やシルバー人材センターの協力を得て、100名を超える来場者の対応も円滑に行うことができた。

■せたがや学生ボランティアネットワーク運営支援（2024 年度実績）

【ネットワーク参加団体】（8 大学 16 団体）

大学	団体名
国土館大学	児童教育研究会
駒澤大学	駒澤大学ボランティアサークル、駒澤大学学生赤十字奉仕団
昭和女子大学	ENVO、ボランティア委員会
テンプル大学	ボランティア活動団体 TUJ COSA
東京医療保健大学	Super Nutritious
東京農業大学	ボランティアサークルいそべや
日本大学文理学部	学生国際ボランティアグループ Salamat “A”、児童文化研究会
明治大学	きずな International、心身障害者福祉会しいの実、のえる、ぱれっと、Relief、SHIP

【ネットワーク会議及びフォーラム開催】

職員・スタッフ体制：各回 2～4 名

実施日	内容	学生参加者数
6 月 7 日	第 1 回ネットワーク会議（成城ホール集会室）	6 大学 13 団体 26 名
8 月 1 日	第 2 回ネットワーク会議（北沢タウンホール）	5 大学 10 団体 17 名
8 月 29 日	第 3 回ネットワーク会議（オンライン）	7 大学 10 団体 16 名
10 月 18 日	第 4 回ネットワーク会議（世田谷ボランティアセンター）	4 大学 6 団体 7 名
11 月 30 日	せたがや学生ボランティアフォーラム（北沢タウンホール）	7 大学 13 団体 42 名
2 月 13 日	第 5 回ネットワーク会議（オンライン）	4 大学 9 団体 13 名
3 月 14 日	第 6 回ネットワーク会議（北沢タウンホール）	4 大学 7 団体 15 名
	計	37 大学 68 団体 136 名

【学生団体の地域活動コーディネート】

ネットワークに参加している学生団体と区、ボランティア協会、地域活動団体等が連携して様々な活動を行うにあたり、コーディネートを行った。

活動名・連携先	学生団体	おもな活動内容
子どもの学び場 歩	昭和女子大学ボランティア委員会	小中学生の学習支援
うめ・ゆめ ふれあい塾	きずな International	小学生の学習支援と遊びの活動
せたがや ASOBO	児童教育研究会	小学生と工作等で遊ぶ会
オリーブルーム	駒澤大学学生赤十字奉仕団 ENVO / 児童教育研究会	多様な子どもに寄り添う学習支援活動
ふるさと区民まつり	のえる いそべや	世田谷ボランティアセンターベースにてスライム体験の運営
アドベンチャー in 多摩川 いかだ下り大会	駒澤大学ボランティアサークル	大会前日の会場設営作業など
ごきんじょ市	下記*	事前準備、当日の運営
ALL TOGETHER FESTIVAL	Salamat “A” SHIP	フォーラム時の“遊びでつながる広場”を再現

*駒澤大学ボランティアサークル、駒澤大学学生赤十字奉仕団、ENVO、昭和女子大学ボランティア委員会、TUJ COSA

■世田谷区 採用1年目「障害福祉体験」研修（2024年度実績）

期間 : 10月1日～11月5日（全10回）
 研修生 : 248名
 講師 : 障害当事者
 職員体制 : 各回5名（合計9名）程度
 会場 : 世田谷区教育総合センター会議室及び周辺の公道

■インターンシップの受け入れ（2024年度実績）

実施日	内容	日数	人数
8月1日(木)～9月7日(土)	産業能率大学 インターンシップ受け入れ	10日間	1名

■各拠点における地域パートナーシップの取組み（2024年度実績）

【世田谷ボランティアセンター】

- ・世田谷地域ケア連絡会 4月30日、9月20日、11月29日、3月17日 世田谷総合支所
- ・世田谷区社会福祉法人地域公益活動協議会(せたがや公益協) 6月6日 オンライン、2025年2月25日 社会福祉協議会
- ・三宿・池尻まちこま会 7月26日 池尻まちづくりセンター

【北沢ボランティアビューロー】

・梅丘地区見守りネットの会

梅丘地区社会福祉協議会と町会・自治会、民生委員、梅丘まちづくりセンター、北沢ビューローも含めた地域施設が参加し、地域で孤立させない、見守り、助け合いのまちづくりを進めた。

5月13日 第1回連絡委員会 基本目標の確認

11月18日 第2回連絡委員会 地域支えあい講座開催の確認

2月12日 地域支えあい講座 テーマ：子どもの見守り・気づきのポイント

講師：世田谷区児童相談所 成澤 玲子氏

・梅丘防災塾

消防署、警察署、まちづくりセンター、地域それぞれの役割や有事の初期行動の確認、「首都直下地震がおきたら梅丘はどうなるのか？」という具体的な話を地域と共有した。

開催日 1月18日

・経堂地区ボランティア交流会

活動している方々と情報交換し、北沢ボランティアビューローの紹介と最近の状況を情報提供した。

開催日 1月27日

【玉川ボランティアビューロー】

・発達障害・障害児サポート情報共有会（前期・後期）

発達障害者と障害児のサポートにかかわる区の担当者、講座講師、国士舘大学の教員が参加し、現状報告、情報・意見交換を実施。協力体制により、協会事業の企画やボランティア養成と地域のニーズ対応に活かされている。

前期 2024年9月13日 参加者 外部10名、協会職員8名

後期 2025年3月27日 参加者 外部11名、協会職員7名

■各拠点における地域パートナーシップの取組み（2024 年度実績）

【玉川ボランティアビューロー（続）】

- ・発達障害関連団体との連絡会 6月20日 成城ホール
- ・用賀地区四者連携会議 4月18日、5月18日、6月20日、7月18日、11月13日、
12月18日、2025年2月23日 用賀まちづくりセンター
- ・用賀地域ケア会議 7月16日 用賀あんしんすこやかセンター
- ・地域包括ケアの地区展開報告会（用賀地区） 2025年1月30日 北沢タウンホール
- ・二子玉川100年懇話会 4月8日、6月3日、8月5日、10月7日、12月2日 玉川町会
- ・二子玉川地域ケア会議 6月18日、11月19日 二子玉川あんしんすこやかセンター
- ・深沢地域ケア会議 7月22日 深沢あんしんすこやかセンター
- ・社会福祉協議会運営委員会 4月23日

【砧ボランティアビューロー準備室】

・ご近所フォーラム実行委員会への参加

住みやすい地域づくりに向けた「砧地域ご近所フォーラム」を実施するため、砧地域における医療と福祉等の関係者で構成された実行委員会にメンバーとして参画した。

2024年度のテーマは「災害」。

- 4月22日 メンバー紹介、イベントの検討（実行委員会の場所はいずれも砧総合支所）
- 5月27日 今年度のテーマとグループワーク
- 6月28日、7月22日、8月23日、9月25日 グループワーク
- 10月23日、11月29日、12月25日、2025年1月27日、2月12日、3月5日、3月14日
グループワーク、イベントの検討
- 3月15日 第14回砧地域ご近所フォーラム2025（成城ホール）
テーマ【互近所フォーラム 防災のための対話や被災時の助け合いが地域をつなげる】
防災模試、砧/成城・喜多見/祖師谷チームに分かれてグループ討議及び発表
- ・砧地域ケア連絡会 5月15日、6月19日、7月17日、9月18日、10月16日、
12月18日、2月19日、3月19日 砧総合支所

【烏山ボランティアビューロー】

・絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆

地域共生社会の実現に向け、烏山地域の区民、事業所等が参加し共に支え合う組織のメンバーとして会議や事業に参加した。

- 6月7日、2月14日 運営委員会 烏山総合支所
- 12月26日 烏山交流・名刺交換会（拡大版地域ケア会議）烏山区民センター
- 2月28日 心のバリアフリー研修 烏山総合支所
- ・烏山地域版地域ケア会議 5月24日、9月6日、10月25日、3月7日 烏山総合支所
- ・烏山合同包括ケア会議（いきいき講座） 10月30日
- ・烏山エリア自立支援協議会全体会 11月15日
- ・烏山エリア自立支援協議会運営会議
4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月30日、10月28日、
11月25日、12月16日、2025年1月27日、2月17日、3月24日 烏山総合支所
- ・要保護児童支援協議会 11月22日 烏山区民センター

■各拠点におけるコミュニティビジネスの取組み（2024 年度実績）

【北沢ボランティアビューロー】

・手作り市

ボランティアビューローで活動している7つの手作りグループのグループ紹介と、各グループ及びボランティア活動推進事業の資金調達を目的に11月30日（土）に開催した。

来場者も約60名 売上 約80,000円

・ビューロー秋バザー

ボランティアビューローで行う活動の参加のきっかけや、リサイクル活動の理解と協力の場を提供、ボランティア活動推進事業の一助を目的に、10月26日（土）に開催した。

バザーボランティア延151名 来場者170名 売上 約247,000円

・お得市

ボランティアビューローで行う活動の参加のきっかけや、リサイクル活動の理解と協力の場を提供、ボランティア活動推進事業の一助を目的に2025年2月1日（土）開催した。

バザーボランティア延べ20名 来場者147名 売上77,200円

【玉川ボランティアビューロー】

・玉川ボランティアビューローバザー

地域の資源再利用を進めながら、ボランティア活動のきっかけ、さまざまなボランティア希望者の受け皿とするため、2025年2月8日（土）に開催した。

売上：384,250円

・玉川ボランティアビューローバザー後売り

バザー翌週2月10日～3月15日まで開催。バザー品の残りを売ることによって地域資源の再利用ができ、普段ビューローに来ることのない人が来所するきっかけとなった。

売上：116,820円

【烏山ボランティアビューロー】

・烏山もったいないバザール

烏山ボランティアビューローの地域に向けた周知を目的に、5月19日（日）に烏山区民センター前広場でバザーを開催した。

売上：22,250円

・烏山地域蘆花まつり

絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆の一員としてブース出展し、烏山ボランティアビューローのPRとともに、バザーを開催した。

売上：10,500円

■子どもの声を聴く活動

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024	238	251	348	183	208	275	312	252	215	257	287	245	3,071
2023	181	208	226	236	144	183	204	153	194	179	313	275	2,496
2022	161	251	313	171	332	307	270	213	179	288	177	210	2,872
2021	189	140	200	164	162	137	142	119	119	217	229	217	2,035

【年間着信件数（オンラインチャット）】（過去3年度の実績）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024	0	0	29	12	8	4	3	4	15	11	5	8	99
2023	8	11	7	8	7	8	7	8	2	12	0	0	78
2022	26	15	12	15	13	22	6	10	9	6	9	24	167
2021	42	35	27	25	12	16	20	31	30	23	8	27	296

■人材養成と研究活動

【公開講座】（2024年度実績）

- ・テーマ 今を生きるこども～知ってほしい子どもたちの現状～
- ・目的 セタがやチャイルドラインの活動を広く周知し、新規ボランティアを増やす機会とする
- ・内容 子どもに関する知識や心構えと姿勢
- ・参加者 36名
- ・各回の日程・テーマ・講師（場所：世田谷ボランティアセンターとオンライン）

講座No.	開催日	時間	テーマ	講師（敬称略）
3	6月8日（土）	13:00-15:00	「子どもの成長と発達 ～傷つく子どもの心～」	藤田 貴士 三鷹マインドフルネス・ラボ 公認心理士
4		15:30-17:30	「思春期の性・男子の性・女子の性 ～男子の性的発達の課題を探る～」	村瀬 幸浩 元一橋大学講師・日本思春期学会名誉会員
5	6月22日（土）	13:00-15:00	「子どもの人権 ～子どものSOSを受けとめる～」	熊澤 美帆 弁護士・東京千代田法律事務所
6		15:30-17:30	「遊びのチカラ・子どもの今」	天野 秀昭 NPO プレーパークせたがや 理事
7	7月6日（土）	13:00-15:00	「子どもと家庭 ～貧困、そして家族問題」	金子 由美子 NPO 法人さいたまユースサポートネット副代表
8		15:30-17:30	「子どもの現状 ～危機介入と支援～」	河島 貴子 世田谷区児童相談所 所長
9	7月20日（土）	13:00-15:00	「コミュニケーションの体験 ～より良いコミュニケーションを目指して～」	山本 多賀子 せたがやチャイルドライン運営委員・支え手
10		15:30-17:30	①「ボランティアをすること」 ②「チャイルドラインとは ～目的と受け手育成～」	①ボランティア協会職員 小畑 ②田野 浩美 せたがやチャイルドライン運営委員長・支え手
11	7月27日（土）	13:00-15:00	「手に入れた“まなざし” ～子どもの権利条約の具現化を目指して～」	西野 博之 NPO 法人フリースペースたまりば理事長
12		15:30-17:30	「子どもへの眼差し 日英の比較」	伊藤 高章 上智大学グリーンケア研究所客員所員

※No. 11、12 は当初 No. 1、2 として予定していた日程(5月11日)から変更

■人材養成と研究活動

【専修講座】（2024年度実績）

- ・目的 チャイルドラインの受け手(第28期(2024年度))養成
- ・対象 公開講座をすべて受講した方
- ・内容 受け手ボランティアを始めるにあたり必要な知識と心構え
- ・各回の日程・テーマ・講師（場所：世田谷ボランティアセンター）

講座 No.	開催日	時間	テーマ
1	9月7日 (土)	13:00-15:00	「出会いのワーク」 担当：文屋 裕子
2		15:30-17:30	「五感で感じてみる」 担当：峯崎 のり子
3	9月14日 (土)	13:00-15:00	「話すこと、聴くこと」 担当：伊藤 高章
4		15:30-17:30	「子どもを振り返って」 担当：田野 浩美
5	10月5日 (土)	13:00-15:00	「電話の特性と限界」 担当：山本 多賀子
6		15:30-17:30	「あなたはどうか考える？」 担当：原口 裕子・深山 ゆみ
7	10月12日 (土)	13:00-15:00	「子ども時代に立ち返るワークショップ」 担当：峯崎 のり子
8		15:30-17:30	「受け手に向かって」 担当：峯崎 のり子、伊藤 高章

【公開講座、専修講座以降の研修等】（2024年度実績）

	目的・内容等	回数	日程
インターン研修	対象：受け手研修を修了し、受け手インターンとして登録した方 内容：受け手インターンとしての実践 (A・B2班に分けて実施)	年8回	4月13日(A・B合同)、5月12日(A)、18日(B)、6月15日(A)、16日(B)、7月6日(A)、21日(B)、8月3日(A)、31日(B)、9月1日(A)、21日(B)、10月20日(B)、27日(A)、11月9日(B)、17日(A)、12月8日(A)、15日(B)、2025年1月18日(B)、19日(A)、2月1日(A・B合同)、3月1日(A・B合同)、29日(A・B合同)
受け手継続研修	対象：インターン期間を終えた受け手 目的：活動のふりかえりやスキルアップ 内容：グループ体験学習や講座型研修	年9回	6月28日、7月28日、9月27日、10月24日、11月16日、2025年1月25日、3月15日 *4月は「全員集合」、5月は「全体会議」、12月は親睦会をそれぞれ継続研修に代えて実施 *1月から、継続研修の内容を会話記録かロールプレイとし、隔月で奇数月の週末に開催
オンラインチャット養成研修	対象：電話受け手 目的：オンラインチャットの受け手を養成する 【新規】	2日間	11月23日(土)オンライン(ZOOM) 11月24日(日)世田谷ボランティアセンター
支え手ミーティング	対象：支え手 目的・内容：支え手同士の意見交換、支え手が受け手の電話対応を支援するための情報共有、支え手の役割を考え再確認する研修の場	月1回	2024年4月25日、5月16日、7月4日、8月23日、10月25日、11月22日、12月17日、2025年1月30日、2月13日、3月25日
全員集合	対象：受け手、支え手、運営委員、事務局 目的・内容：相互の交流や情報交換	年3回	4月20日(土)26期認定式、新規運営委員、支え手への委嘱状交付、対談 8月31日(土)台風のため中止 12月7日(土)公開講座・専修講座修了者(28期)との意見交換

■組織の運営活動

【各種会議】 場所：世田谷ボランティアセンター又はオンライン

	目的・内容等	回数	日程
運営委員会	せたがやチャイルドラインの運営方針を示す	月1回	2024年4月13日、5月11日、6月11日、7月25日、8月22日、9月17日、10月12日、11月28日、12月19日、2025年1月23日、2月27日、3月27日
全体会議	メンバー全員でチャイルドラインについて話し合う	年1回	2024年5月25日
講座検討委員会	公開講座や専修講座の内容、専修講座修了後の面接等について検討する	必要に応じて	2024年7月13日、8月13日、9月5日、2025年3月11日
事務局会議		随時	

【せたがやチャイルドライン運営委員】

(敬称略 委員は50音順)

田野 浩美(委員長)、窪松 恵美子(副委員長)、大懸 竜次(情報セキュリティ責任者)、
伊藤 高章、備藤 士郎、星野 弥生、山本 多賀子

■職員体制

【職員研修】

月日	会議（人材育成に資するもの）/ ふりかえり	研修
4月10日	戦略会議	
5月29日	相談ふりかえり	
6月12日		相談業務スキルアップ研修*
7月 5日	事業ふりかえり	
8月30日	相談ふりかえり(台風のため中止)	
9月27日		相談業務スキルアップ研修*
10月4日	相談ふりかえり	
11月8日	戦略会議	
12月3日	相談ふりかえり	
1月31日		相談業務スキルアップ研修*
2月19日	事業ふりかえり	
3月 5日		相談業務スキルアップ研修*

*相談業務スキルアップ研修 講師：末松渉氏

II. ボランティア・市民活動推進第2部（せたがや災害ボランティアセンター）

2024年1月に発生した能登半島地震に対し、ボランティア派遣、ボランティアコーディネーション支援を継続的に実施するとともに、この間の取組みについて活動報告会を開催して情報発信し、地域や防災塾等での講話を通じて世田谷の課題について考える機会とした。

区の避難所運営マニュアル改定や能登半島地震を背景とした区民の関心の高まりを背景に、指定避難所ファーストアクションカードについて、避難所運営委員会や訓練におけるこれまでの実践例を踏まえて再構築について協会内で検討し、区に再構築の提案を行った。また区民の約半数はマンションなど集合住宅に居住していることを踏まえ「マンション防災への取り組み」をテーマに防災シンポジウムを開催した。

災害時の活動拠点となるサテライト（指定避難所に設置）について、2023年度の調査結果を踏まえて選定の働きかけを行い、地域との連携を図った。加えて中期計画に位置づけた在住外国人向けの取組みについて、区内での防災講話開催、都と連携した外国人被災者支援研修への運営協力など、災害への備えの大切さを幅広く呼びかけた。

能登半島地震被災地支援活動を通じて災害ボランティアコーディネーター養成の必要性が再認識されたことを踏まえ、養成講座（基礎編）を5地域各1か所の協定大学において実施するとともに、養成講座を修了しコーディネーター登録した方を対象とするスキルアップ講座を年6回実施することとし、複数年度にまたがる連続プログラムを構築するなど充実を図り、災害ボランティア活動にかかわる人材育成を進めた。

1 災害ボランティアコーディネーターの拡充

（1）重点目標

災害ボランティアコーディネーター（以下「コーディネーター」と略）として登録しやすい仕組みを整え登録者を増やすとともに、登録者のための養成活動を制度化し充実させて、意欲のあるコーディネーターを多数養成する。

（2）取組みと進捗・活動状況

①コーディネーター登録制度及び養成活動についての広報

コーディネーターの役割、養成の仕組みについて周知するため、ホームページ、セボネ、刊行物、ソーシャルメディア等も含めて機会あるごとに一層の広報を図った。

②コーディネーター活動マニュアルの策定

スキルアップ講座の再構築によりサテライト運営が具体的に掘り下げられ、運営マニュアルの各項目に該当する内容の整備が進捗した。

③コーディネーター養成のための体系的カリキュラムの策定

スキルアップ講座全12回の実施により、コーディネーターに対しサテライトの具体的なイメージが共有されるようになった。また、スキルアップ講座が2巡目に入ったこともあり、今後の補講対応としてオンデマンド化の検討も始めた。

④コーディネーター養成講座の実施

A. 養成講座・基礎編

コーディネーターとしての入門講座をマッチングセンターを開設する区内の5地域各1か所の大学で開催した。先輩コーディネーターによるオリエンテーションとボランティアエピソードの紹介など、登録以降の活動イメージを持ちやすくする工夫を増やした。

また、オンライン講座も引き続き実施した。

（詳細は資料編 p.46 参照）

【基礎編の内容】

- | | |
|---------------------|------------------|
| ① 世田谷区の災害対策について | (5 地域 地域振興・防災担当) |
| ② 世田谷区の災害ボランティア受入体制 | (センター地域担当職員) |
| ③ これからの流れ | (センター職員) |
| ④ マッチングセンター模擬訓練 | |
| ⑤ 講評と質疑応答 | (センター長) |
| ⑥ 修了式 | |



イ. スキルアップ講座

基礎編の受講を終えてコーディネーター登録した方を対象に、体系的・継続的な養成講座を実施する。

2024 年度は、2023 年度中に第 6 回まで開催した続編として第 7 回～第 12 回を開催するとともに、第 1 回～第 3 回の 2 巡目を開催した。
(詳細は資料編 p. 46 参照)



ウ. 専修講座

年 1 回、タイムリーなテーマを選んで災害やボランティアコーディネート活動に関する講座を「専修講座」として開催している。
(詳細は資料編 p. 46 参照)

2024 年度は、能登半島地震ボランティア活動報告会として開催した。また活動経験に応じてコーディネーターのリーダー的役割を担う候補者 60 名の選出を行った。

2 サテライトでのコーディネート活動を充実させるための基盤整備、世田谷区内で発生する様々な災害に対応したコーディネート体制の整備

(1) 重点目標

災害時のボランティア活動の拠点となるサテライト(指定避難所等に設置)がマッチングセンター(区内 5 地域各 1 か所の大学に設置)と連動して実働することができるよう、サテライト設置状況調査の結果を踏まえ、場所、レイアウト及び備品等について学校や地域など関係先との調整を進める

世田谷区内で災害が発生した場合に備えて、2019 年の台風 19 号による水害時のコーディネート活動の経験を踏まえたコーディネート体制の整備を進める。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①サテライト設置の働きかけ

2023 年度にまちづくりセンター連絡調整協議会を通じて調査し、とりまとめた地区ごとのサテライト設置状況調査結果を前提に、小中学校等の指定避難所へのサテライト設置について、具体的な場所選定の働きかけを行った。

②区、社会福祉協議会との情報交換、情報共有

区、世田谷区社会福祉協議会、せたがや防災NPOアクションとの災害ボランティア連絡会を開催し、各団体の活動状況についての情報交換、区の災害への取組についての情報共有を行った。

(12月5日 世田谷ボランティアセンター)

指定避難所ファーストアクションカードについて、避難所運営委員会や訓練におけるこれまでの実践例を踏まえて再構築について協会内で検討を行い、区に再構築の提案を行った。(2025年3月28日 区役所本庁舎)

3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

(1) 重点目標

避難所避難、在宅避難、その他の自主避難など様々な境遇に置かれる被災者に対して、それぞれの避難形態に応じてどのようにボランティアの支援をコーディネートするのかを検討し、防災講話等様々な機会を捉えて的確な広報に努める。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換

各地区で実施される避難所運営委員会への出席、避難所運営訓練への参加、防災塾の企画・運営、区民向けの防災講話や各種防災イベントへの参加・協力を積極的に進めた。

その中で、能登半島地震被災地支援活動の経験や災害ボランティアのマッチングの仕組みを説明する防災講話等を行った。これらを通じて、町会・自治会や区まちづくりセンター、地区社会福祉協議会、民生・児童委員等との連携を図った。(詳細は資料編 p.47-49 参照)

②学校・授業の支援

区内大学、高校等からの災害や防災に関する講座の依頼に対応し、災害ボランティア受入のしくみの紹介、世田谷版HUG(避難所運営ゲーム)の実施、マンホールトイレの組み立てなど、災害への理解を深め、防災への取組みの促進を図った。

授業協力を行っている都立芦花高校においては、協会職員が同校の防災教育推進委員会委員を務めた。(詳細は資料編 p.47 参照)

③地域での啓発活動

災害・防災に関する啓発活動の一環として、各種地域イベント等において参加、展示等を行った。(詳細は資料編 p.47-49 参照)

■防災シンポジウム

- ・開催日・場所 2025年1月18日(土) 三茶しゃれなあど
- ・テーマ 「マンション防災への取り組み」
- ・内容 耐震化が進む一方で設備や管理体制、住民連携など特有のリスクもあるマンション防災について、登壇者と共に考える機会とした。
- ・参加者数 86名



(第1部) 基調講演

登壇者：石川伸雄氏(池尻4丁目町会会長、マンション管理組合防火・防災管理者)
小野富雄氏(株式会社小野富雄建築設計室室長)

(第2部) パネルディスカッション

進行：横山康博 せたがや災害ボランティアセンター長

④在住外国人対象の防災講話充実

外国ルーツの区民は全体の約 3%を占める。こうした方々への適切な情報提供を通じて災害への備えを呼びかけることが重要との認識から、せたがや国際交流センターとの連携により防災講話の充実を図った。 【拡充】

2024年5月28日 「やさしい日本語勉強会」を職員受講

(会場：世田谷ボランティアセンター 講師：せたがや国際交流センター)

6月29日・10月3日 JCA防災講座「災害への備えを考える」

(会場：玉川ボランティアビューロー)

参加者 6月29日 20名、10月3日 38名

12月3日 東京都つながり創生財団主催「避難所における外国人被災者支援研修」に運営協力

(会場：東京体育館) 参加者 36名

4 災害ボランティア登録制度の整備

(1) 重点目標

区民を中心に、災害時に活動できる一般ボランティア及び専門ボランティアについて事前登録制度を整備し、日常的な情報交換と災害発生時の活動呼びかけ等を円滑かつ効果的に行う体制を整える。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①災害ボランティアの登録方法、運用方法の策定と登録

せたがや災害ボランティアセンターを中心とする協会全体のICT環境整備に関する検討と連携を図り、協会内にIT環境改善タスクチームを設けて検討を進めた。

2024年4月25日、6月18日、8月27日、9月24日、11月20日、2025年1月23日、3月11日

②災害ボランティア情報データ管理の充実

全国及び東京都の社会福祉協議会でも導入している kintone (キントーン)への移行に伴い、全コーディネーターに対し新システムへの移行に伴う登録情報の確認とフォーム入力によるデータ更新を通知し、従来の salesforce (セールスフォース)からのデータ移行を進めた。

5 ネットワーク・情報交換活動

(1) 重点目標

災害支援活動に取り組む様々な団体とのネットワークを重視して、適切な情報交換を行う。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①東京都社会福祉協議会城南ブロック防災担当者会議への参加

2023～24 年度は世田谷区がブロックの担当幹事を務め、世田谷区社会福祉協議会と協力して情報共有会議を開催した。2024 年度当初に能登半島地震被災地支援の取組みについて情報交換、意見交換を行い、年間を通じた会議運営方針を確認した（5 月 29 日 世田谷ボランティアセンター）。

「日常と災害時のニーズをどう受け取るか」をテーマとするシンポジウムを開催（2025 年 2 月 13 日 三茶しゃれなあどホール）、年度末には次年度の会議の進め方を確認し、次期幹事区に引継ぎを行った（2025 年 3 月 14 日 世田谷ボランティアセンター）。

②他団体との協定締結

災害時には様々な支援を必要とするため、平時から様々な団体とどのような協力ができるか話し合い、つながりをつくることも大切である。2022 年度の東京三軒茶屋ライオンズクラブに続き、2023 年度に東京世田谷ライオンズクラブ、公益社団法人東京青年会議所(JC)と協定を締結している。

2024 年度は、これらの団体との連絡調整、情報交換を通じて相互の連携を図るとともに、8 月 25 日に日本ボーイスカウト東京連盟世田谷地区と協力協定を締結した。後述の被災地支援、特にボランティア派遣募金活動において、これら各団体からは多大の協力を得た。

また、2025 年 1 月 31 日に東京さぎそうライオンズクラブとも新たに協力協定を締結した。



③広域連携・広域支援

災害支援に取り組む様々な団体とのネットワークによる相互の情報交換と支援活動を行った。

能登半島地震被災地支援の取組みを通じて、他自治体の社会福祉協議会職員や全国の活動団体との情報交換や交流を図った。

6 災害支援のための活動

(1) 重点目標

各種災害の被災地に対して迅速に災害ボランティアを派遣できるよう、派遣側の災害ボランティアセンターとしてのコーディネート活動に備える。

(2) 取組みと進捗・活動状況

①能登半島地震被災地支援

能登半島地震について、被災地支援ボランティア派遣等の取組みを進めた。

■ボランティア派遣

現地の被災状況、ボランティアニーズ等に関する調査結果を基に、現地受入態勢に応じてボランティア及び災害ボランティアセンター職員を派遣した。2024 年 5～9 月は現地の要請に基づきボランティアコーディネーション支援も行った。

	ボランティア派遣	ボランティアコーディネーション支援
活動内容	現地ニーズによる（個人宅の荷運び、がれき撤去、ニーズの収集等）	穴水町災害ボランティアセンターの運営支援

	第1便は先遣隊の要素も含む	
活動時期	週末（随時）	週末（毎週金・土・日、8月以降金・土）
1回あたり 派遣規模	ワゴン車(10人乗り)に乗車可能な人数 ボランティア+職員	1～3名 コーディネーター+職員
移動手段	世田谷～現地 レンタカー	新幹線、金沢からレンタカー
活動場所	石川県穴水町（災害ボランティアセンター）	
現地宿泊	石川県穴水町内（第1便は石川県七尾市内）	
参加者	7回 計67名	17回 計46名

＊ボランティア派遣者

- ・ 事前登録：協会ウェブサイトでの告知、災害ボランティアコーディネーター登録者等へのメール等により募集
- ・ 派遣募集：派遣日程が決まり次第、事前登録ボランティアにメールで周知し、日程等の都合のつく方に申込フォームにより応募いただく



■募金活動

被災地の復旧のために、世田谷ボランティア協会が実施するボランティア派遣・活動支援に向けた事業に充てることを目的として、募金活動を行った。

- ・募金箱設置：ボランティアセンター・ビューロー、協力店舗等、事業実施時
- ・街頭募金：協会との協力協定締結団体(ライオンズクラブ、東京青年会議所、ボーイスカウト)、ボランティアの協力を得た
- ・振込口座：郵便振替、ボランティアセンター・ビューローで振込票配布
- ・PR：チラシ、協会広報媒体、パブリシティ等
- ・募金額：2024年1月から2025年3月末までの累計 1,233,360円

月	現地調査・ボランティア派遣	派遣報告・フィードバック	活動資金調達・広報
2024年1月			●1/21 街頭募金 ●1/28 街頭募金
2	●2/22-25 職員派遣	●2/1 セボネ2月号	●2/18 街頭募金 ●2/23 街頭募金
3	●3/15-18 第1便	●3/1 セボネ3月号 ●3/22 専修講座	●3/23 街頭募金
4	●4/12-14 第2便	●4/1 セボネ4月号	
5	●5/10-12 第3便 ●5/24-26 第4便 ●	●5/1 セボネ5月号	
6	●6/14-16 第5便 ● ●6/28-30 第6便 ●	●6/1 セボネ6月号	
7	●7/26-28 第7便 ●	●7/1 セボネ7月号	
8	(台風のため中止)○	●8/1 セボネ8月号 ●8/21 専修講座(活動報告会)	
9		●9/1 セボネ9月号	

■その他

- ・日本財団から支援金（2024年3月22日付け100万円）、中央共同募金会から助成金（2024年8月30日付け52万円）の交付決定を得て、活動を行った。
- ・東京ボランティア・市民活動センターが実施する能登半島地震被災地支援ボランティア（計29回）の募集・受付について協力した。

（2）交流支援活動

東日本大震災被災地との継続的な交流支援活動の一環として、ボランティアの参加を得て福島県川内村との交流支援を行うとともに、ボランティアの活動実践と学びの機会とした。

9月 7～8日 参加者7名 地域の祭り行事の準備及び参加等

10月26～27日 参加者7名 地域の交流イベント準備及び参加等

7 成果と今後の課題

世田谷区の避難所運営マニュアル見直しを契機に区民の災害への関心が高まっていたところに能登半島地震が発生した。以後、せたがや災害ボランティアセンターとして被災地支援ボランティアの派遣、災害ボランティアコーディネーター派遣等の取組みを続けてきた。この活動の経験を、区民の意識醸成と行動実践の促進、災害ボランティア活動に関わる人材養成に活かしていく。また、東日本大震災被災地(福島県川内村)交流支援については、被災地支援体験活動として位置づけ、今後も継続する必要がある。



協会全体としての寄付募集強化の取組みと連携してせたがや災害ボランティアセンターとしてのフライヤーを2025年3月に作成した。今後、災害・防災啓発イベント等で活用を図っていく。

2024年度に引き続き、災害ボランティア情報データの新システムへの移行を円滑に実施する。また、複数年度にわたって実施する災害ボランティアコーディネータースキルアップ講座の成果を活かして、サテライト実地訓練を行い、運営マニュアルを実践的な内容にとりまとめていく必要がある。

8 職員体制

(1) ボランティア・市民活動推進第2部（せたがや災害ボランティアセンター）職員体制

	常勤	臨時
センター長		1名（兼務）
次長（部長事務取扱）	1名（兼務）	
災害担当	3名	2名（兼務1名）

（2025年3月31日現在）

(2) 職員研修

災害担当職員の災害ボランティア活動及びコーディネート活動に関する知見を深め、かつ協会の活動ビジョンへの理解を促進するための内部研修とともに、災害ボランティアに関する外部研修にも派遣し、情報収集や関係機関との連携を図った。

*ボランティア・市民活動推進第2部の実績データについては以降に掲載

■コーディネーター養成講座の実施

【養成講座・基礎編】（2024 年度実績）

参加者数：オンライン講座は視聴者

事業名・開催場所	実施日	参加者数
基礎編・昭和女子大学	6 月 10 日	48 名
基礎編・国士舘大学	9 月 2 日	38 名
基礎編・日本大学商学部	10 月 7 日	15 名
基礎編・日本女子体育大学	11 月 2 日	10 名
基礎編・日本体育大学	12 月 8 日	37 名
オンライン講座	4～6 月	185 名
オンライン講座	7～9 月	127 名
オンライン講座	10～12 月	178 名
オンライン講座	1～3 月	136 名
計		774 名

【スキルアップ講座】（2024 年度実績）

回	テーマ	開催場所	実施日	参加者数
7	避難所との関係・連携	三茶しゃれなあど	4 月 20 日	28 名
8	終業ミーティング	梅丘パークホール	6 月 22 日	25 名
9	マッチングセンター・サテライトでの情報管理	成城ホール	8 月 24 日	31 名
10	活動に伴って発生したトラブルへの対応・ボランティア保険	ボランティアセンター	10 月 19 日	35 名
11	資機材の調達・貸出・管理	ボランティアセンター	12 月 14 日	25 名
12	さまざまな要配慮者への対応	ボランティアセンター	2 月 22 日	45 名
1	コーディネーターの役割とその大切さ	烏山区民会館	7 月 20 日	24 名
2	マッチングセンター・サテライトの開設手順	ボランティアセンター	9 月 21 日	25 名
3	災害ボランティア支援ニーズのヒアリング	ボランティアセンター	11 月 16 日	24 名
計			9 回	262 名

第 1～3 回は 2023 年度に開催した講座の 2 巡目。第 4 回以降は 2025 年度に開催予定

【専修講座】能登半島地震ボランティア活動報告会（2024 年度実績）

・実施日・場所 8 月 21 日(水) 三茶しゃれなあどホール

・参加者 54 名

・内容

基調報告	小泉宰美（せたがや災害ボランティアセンター）
ボランティア活動報告	藤井敏史氏（災害ボランティア）
コーディネーター活動報告	中野 篤氏（災害ボランティアコーディネーター）
穴水町災害ボランティアセンターの 立ち上げと運営	吉田由紀子氏（社会福祉法人穴水町社会福祉協議会）
パネルディスカッション	進行 横山康博（せたがや災害ボランティアセンター長）
	パネリスト 清水孝彰氏（災害ボランティアコーディネーター）
	佐藤靖子氏（災害ボランティアコーディネーター）
	小出一博氏（ADRA Japan）
	柳原陽一（せたがや災害ボランティアセンター）
	総括 清水 裕氏（昭和女子大学人間社会学部教授）

■学校・授業の支援（2024 年度実績）

事業名	内容	実施日	参加者数
都立松原高校	HUG (避難所運営ゲーム)	7 月 12 日	24 名
国士舘大学 防災リーダー養成論実習	災害ボランティア活動	8 月 20～29 日 (6 回)	602 名
都立芦花高校防災講座	防災講話、 マンホールトイレ組立訓練	10 月 18 日	267 名
	計	8 回	893 名

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換（2024 年度実績 実施日順）

【世田谷地域】

会場	避難所運営委員会	避難所運営訓練、防災啓発イベント
笹原小学校・桜丘中学校	6 月 22 日 11 名	
池尻小学校	7 月 13 日 40 名	
三宿小学校	7 月 16 日 27 名	在宅避難講話 10 月 5 日 54 名
三軒茶屋小学校	7 月 25 日 16 名 9 月 6 日 12 名	訓練参加 6 月 14 日 18 名
中丸小学校	7 月 31 日 16 名	サテライト説明 10 月 19 日 45 名
中里小学校	8 月 21 日 14 名	訓練参加 9 月 14 日 34 名
駒繫小学校	8 月 29 日 34 名 9 月 17 日 36 名 9 月 24 日 2 名 11 月 14 日 21 名	訓練参加 10 月 5 日 80 名
太子堂中学校	9 月 26 日 8 名	
旭小学校	10 月 7 日 58 名 12 月 10 日 15 名	サテライト説明 11 月 10 日 100 名
多聞小学校	10 月 16 日 32 名 11 月 13 日 33 名	サテライト説明 12 月 14 日 72 名
三宿中学校	10 月 29 日 14 名	訓練参加 11 月 30 日 55 名
弦巻小学校	12 月 23 日 5 名	訓練参加 12 月 21 日 28 名
太子堂小学校		サテライト説明 4 月 20 日 49 名 訓練参加 11 月 2 日 46 名
若林小学校		PR コーナー 5 月 18 日 18 名
経堂地区介護事業者分科会		防災講話（地震） 8 月 29 日 70 名
世田谷区ケアマネ連絡会		能登半島地震講話 9 月 20 日 41 名
都営桜 1 丁目アパート自治会		在宅避難講話 11 月 3 日 26 名
地域福祉推進大会(世田谷区民会館)		PR コーナー 11 月 24 日 441 名
日赤上馬分団		災害時トイレ対策 11 月 28 日 42 名
駒沢中学校		訓練参加 12 月 14 日 43 名
計	18 回 394 名	19 回 1,262 名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換（2024 年度実績 実施日順）

【北沢地域】

会場	避難所運営委員会	避難所運営訓練、防災啓発イベント
旧北沢小学校	6 月 16 日 34 名	
富士中学校	9 月 30 日 21 名 10 月 28 日 42 名	訓練参加 11 月 16 日 76 名 防災基礎講座 同日
代沢小学校	10 月 2 日 44 名 12 月 10 日 16 名 3 月 13 日 13 名	訓練参加 10 月 19 日 158 名 防災基礎講座 同日
緑丘中学校	12 月 3 日 15 名	訓練参加 11 月 23 日 541 名
北沢地域町会連合会 総会		能登半島地震講義 5 月 23 日 60 名
松沢小学校		能登半島地震講話 7 月 13 日 31 名
まもりやまテラス		サテライト説明 6 月 28 日 21 名 訓練参加 11 月 10 日 317 名
松沢地区防災塾ワーキンググループ		能登半島地震講話 8 月 9 日 20 名
代沢 5 丁目東町会		訓練参加 11 月 10 日 29 名
松沢小学校		訓練参加 11 月 30 日 39 名
下北沢小学校		訓練参加 12 月 14 日 32 名
代沢地区身近なまちづくり推進協議会・防災安全部会		防災講話 1 月 14 日 24 名
山崎小学校		訓練参加 3 月 1 日 36 名
計	7 回 185 名	13 回 1,384 名

【玉川地域】

会場	避難所運営委員会	避難所運営訓練、防災啓発イベント
九品仏小学校	6 月 16 日 16 名 9 月 17 日 34 名	コーディネーター説明 11 月 23 日 32 名
八幡小学校	6 月 20 日 13 名	訓練参加 9 月 28 日 34 名
玉川生涯学習セミナー		防災講話 9 月 3 日 13 名
玉川台区民センター地域防災		在宅避難 9 月 12 日 23 名
八幡小・中学校、九品仏小学校		訓練参加 9 月 17 日 34 名
ここからカフェ九品仏		能登半島地震講話 11 月 2 日 14 名
八幡中学校		訓練参加 12 月 14 日 32 名
計	3 回 63 名	7 回 182 名

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換（2024 年度実績 実施日順）

【砧・烏山地域】

会場	避難所運営委員会	避難所運営訓練、防災啓発イベント	
給田小学校	9 月 10 日 23 名	訓練参加	9 月 28 日 46 名
武蔵丘小学校	9 月 20 日 23 名	訓練参加	9 月 28 日 51 名
烏山小学校		PR コーナー	5 月 12 日 341 名
烏山地域版地域ケア会議		被災地支援他	5 月 15 日 44 名
世田谷キューズガーデン		PR コーナー	5 月 18 日 250 名
東京テラス 防災ワークショップ		災害ボランティアセンターの活動 6 月 23 日 33 名	
烏山北小学校		訓練参加	9 月 7 日 49 名
蘆花まつり		PR コーナー	10 月 27 日 100 名
東都生協		能登半島地震支援	11 月 30 日 25 名
上北沢防災フェア		PR コーナー	12 月 1 日 274 名
成城南フラッツ（成城自治会）		訓練参加	12 月 8 日 34 名
計	2 回 46 名	11 回	1,247 名

【防災塾での防災講話等】（2024 年度実績）

事業名	内容	実施日	参加者数
九品仏地区防災塾	地区防災計画の再点検	11 月 13 日	28 名
防災フェス in 烏山	ボランティア相談	1 月 18 日	270 名
新代田地区防災塾	能登半島地震と首都直下	1 月 25 日	26 名
松原地区防災塾	能登半島地震と在宅避難	1 月 28 日	37 名
計		4 回	361 名

Ⅲ. 福祉事業部

2024 年度、介護保険・障害福祉サービス報酬改定が行われた。この改定により、虐待防止措置の適正化、認知症予防の支援強化、感染症発生時を含む医療連携支援加算の見直し、介護職員への処遇改善加算等の改正があった。一方、生活介護事業(ケアセンターふらっと)、訪問介護支援(ケアステーション連)において基本報酬の見直しがあり、関連する事業所の収入に大きな影響が出た。

このような状況においても新規利用者の受け入れは積極的に行い、事業部全体で 260 名ほどの方が新規利用につながり、継続してサービスを利用されている方も合わせ、延べ 780 名の方へ支援を行うことができた。この数字は、地域のなかで福祉事業部が 28 年間積み重ねてきた「つながり」とともに、事業が必要とされている表れと感じる。また、この数字の裏には、事業の担い手である職員の日々の努力とボランティアを含めた地域の方々の支えがあることも忘れてはならない。

今後も、地域から必要とされる事業の継続に向け、真摯に専門職として研鑽を積みながら、障害のある方々が希望をもち暮らしていくことにつながるよう、事業活動を地域のなかで継続していく。

【重点目標に対する取り組みについて】

① 各事業の課題分析を基に、新たな事業展開を目指していく

管理者会議を中心に事業の課題を整理し、福祉事業部全体で共有しながら課題解決に向け、以下の内容に取り組んだ。

- ・ 新規利用者の積極的な受け入れ
⇒ 新たな事業展開を目指し、地域から求められるニーズに可能な限り応えるため、新規利用者の受け入れを積極的に行った結果、全事業において 260 名の新規利用につながった。
- ・ 事業進捗状況と課題の見える化
⇒ 「事業進捗状況確認シート」を作成し、毎月の管理者会議で各事業重点項目に対する取り組み、進捗状況を確認し、課題を見える化した。
また、四半期ごと「福祉事業部事業予定」を作成し、事業進捗の見える化を図った。
- ・ 福祉事業部全体会の活用
⇒ これまで 2 カ月毎であった全体会を毎月開催にし、「事業進捗状況確認シート」の活用、事業予定、収支状況の確認も行い職員全体で共有を図った。
- ・ 事業計画及び報告の概要版改正
⇒ 理事、評議員の方への説明のために作成していた事業計画・報告概要版を各事業の取り組み、課題、支援の流れが分かるよう改善を図った。
改善した概要版は、事業部全体会においても活用し職員全体で共有を図った。
- ・ 課題分析シートの作成と検証
⇒ 各事業における課題を見える化するため「課題分析シート」を作成した。
管理者会議においてシートを活用し、課題解決に向け必要な取り組みについて協議した。
- ・ 事故対応の共有化
⇒ 事故報告書のフォーマットを整備し、事故の原因、再発防止策の共有を図った。

② 担い手である全ての職員お互いがそこに在ることで力を発揮し合う「人在」として、十分に活躍できる職場づくりおこなう

全ての事業において担い手である職員が、互いに学び、考え、成長することができる環境づくりを目指し以下の取り組みを行った。

- ・ 福祉事業部全体会の定期開催
⇒ 毎月全体会を開催し、虐待研修、事例検討から支援の在り方や、支援に必要な考え、知識を互いに学び合う機会を作った。

- ・ 感染症対応の共有
 - ⇒ 利用者だけではなく、職員も感染症から守るため、事業部全体会、各事業部の会議で感染症対応について話し合い、感染対策の確認を適宜行った。
- ・ 障害福祉サービスに関する研修の実施
 - ⇒ 職員が携わっている事業が、どのような制度上で成り立っているのか、また、福祉事業部内での他の事業の機能を知り、日々の支援に生かすため、全体会で研修を行った。
 - ・世田谷保健福祉センター保健福祉課による障害福祉サービスの説明 ・ぽーとの事業説明
- ・ 業務目標シートの見直し
 - ⇒ 職員それぞれの力が事業内で発揮できるよう業務目標シートを見直し、福祉事業の業務内容に合わせた目標設定ができるよう改善した。
- ・ 求人活動の拡張と人材確保
 - ⇒ より働きやすい職場づくりに向けたより多くの人材の確保を目指し、求人活動の方法を拡張し、正規職員 2 名、臨時職員 4 名の採用につなげた。
 - ・せたがや福祉のしごと相談会・面接会参加 ・マイナビ福祉介護の仕事への掲載等
- ・ 介護職員初任者研修受講促進事業の開始
 - ⇒ より働きやすい職場づくりに向けた人材確保に向けた取り組みとして、福祉の資格がない方を雇用し、働きながら資格を取得できる事業を開始した。
- ・ 福祉事業に長けた社労士への業務委託
 - ⇒ 職員が働きやすくなるための労働環境の整備、助言、処遇改善加算及び諸手当の申請業務委託を目的に福祉事業に長けた社労士と契約し、労働環境に関する相談等を行ってきた。

1. ケアセンターふらっと（障害者総合支援法 生活介護事業・自立訓練事業・高次脳機能障害者相談支援促進事業・特定相談支援事業）

2024 年度は、事業全体として活動中にマスクを着用しながらも、新型コロナウイルスの影響に振り回されることなく、共に食事をとり、会話を弾ませ、所外活動も積極的に行うなど、活気のある活動を展開することができた。一方で、4 月から活動時間に合わせた基本報酬に報酬改定があり、具体的な収支対応を実施できるまでに時間を要したことから、結果として赤字を生む事態となった。これは、今後に向けた大きな反省点となった。自立生活訓練事業からは2名の就労者を送り出すことができ、凛としたその後ろ姿は私たちへの励みとなった。また事業全体として「BCP」をより身近なものにするために、利用者の方々に 2 度のアンケートを実施し「備え」の具体化に向けて活動を開始し、次年度への継続すべき活動となった。

(1)基本方針

利用者の主体性に基づくリハビリテーション・プログラムを以下の方針に基づき提案し実施していく。

1. 社会生活への主体的な参加
2. いのちと人権を守りながら、心身の健康維持増進をはかる
3. 個性・特性を尊重した活動
4. 利用者と家族への支援
5. 地域の人たちとの交流

(2)主な取り組みと進捗状況の報告

① 生活介護事業

重点目標である「災害時への備え」をより身近なものにするため、事業全体で2回のアンケートを実施した。単身生活者も増えていることから、より個別性に重きを置くことや、当事者と共に計画を立てることの重要性と方向性が見えた。現在では在宅避難が推奨されるなど「備え方」は変化していく為、次年度も当事者との話し合いを行い、その内容を取り入れて個別支援計画の作成に取り組んでいく必要がある。

② 自立生活訓練事業(利用期限:2年)

新規利用者 7 名を迎え入れ、「個別性を重視した支援の継続」として目標に応じた様々なリハビリプログラムを実施し、2 名が就労につくことができた。

③ 高次脳機能障害者支援促進事業

2023 年度からの継続相談を行っていた 50 名に加え、2024 年の新規相談 38 名を加え、合計で 88 名の相談支援を相談員 2 名(兼務)で実施した。相談内容については、退院後の地域生活やリハビリテーション、日中の暮らし方など多岐に渡っており、インテーク時から相談支援の進め方や利用可能な福祉サービスの案内や提案などを行った。

新規の相談経路は、ご本人とご家族が 25%、病院 MSW などが 6%であったが、ケアマネジャーと地域包括支援センターなどの介護保険領域からの相談が 18%と増加している傾向がみられた。原因疾患別では、脳血管性の疾患が 65%と最も多いが、発症前からの既往歴に精神疾患や発達障害のある(疑われる)ケースが増えている。年齢別では、30 代～50 代が 48%であり、復職や新規就労の希望が多いことから、自立訓練および就労移行支援事業所などの利用に繋げるケースが増えている。

職員研修として「高次脳機能障害学会」への参加や、地域の関係機関が主催する研修会に講師として参加して情報共有とネットワーク作りを行った。

高次脳機能障害相談で相談支援を開始した後、計画相談での相談支援に移行するケースもあり、相談支援の長期化が課題と考えている。そのため、当事者とご家族が複数の相談先が持てるよう、行政のみならず、就労支援機関、地域障害者相談支援センター、あんしんすこやかセンターなどの関係機関との役割分担が必要となる。

④ 特定相談支援事業

相談員 6 名(兼務を含む)が利用当事者の希望に沿って、80 名の方々のプランを共に作成し、暮らしを大切にしながら、新規利用希望者に応えた。

(3)活動状況

① 生活介護事業

高次脳機能障害だけでなく、身体障害や視覚障害、日常的な医療ケアが必要な方など、さまざまな後遺症がある。それぞれの障害状況と希望に合わせて、専門のスタッフとチームを組み支援を重ねてきた。高次脳機能障害や身体のリハビリだけでなく、健康的な日常生活を送るための医療ケアや、専門職による評価、医師との医療相談、仲間との交流などさまざまな活動を実施した。具体的な例としては、ヘルパーの同行を依頼して、これまで利用したことがなかった電動車いすを使うなど、活動を広げる支援を行った。日常生活をそれぞれが主体的に組み立て、自身が窮することのない暮らしの術を一緒に考え、実践し支援した。

■主な活動

- ア、料理活動
- イ、身体機能維持・回復の活動
(リハビリテーションプログラム・生活支援・健康管理)
- ウ、創作活動
- エ、仲間づくり
- オ、所外活動
- カ、個別支援プログラムの作成と実施



※毎年恒例のお花見で駒沢公園へ

② 自立生活訓練事業

2025 年度も、多くの利用者が復職や就労を希望された。利用者と相談しながらプログラムを作成し、目標達成に向け実施と見直しを繰り返し進めてきた。結果、復職 2 名、新規就労 2 名の合計 4 名を送り出すことができた。当事者の希望に沿いながら、ハローワーク、就労移行支援事業所、職場、医療機関、就労支援センターなど関係機関と連携し、地域の様々な事業所が一つのチームとなって支援したことで成果につながったと考えている。また、利用者と話し合える時間を積極的に設け、希望の再確認や意思決定のサポートをしたことも大きな要因と考えている。



※大島花子さんと当事者ユニット
「ゆとり」のギターセッション大会

③ 高次脳機能障害者相談支援促進事業

高次脳機能障害の支援・普及を目的に、区、東京都、および区西南部圏域との連携を図った。

区については、世田谷区保健センターとの協議(全 3 回)を行い、区内の高次脳機能障害のある人とその家族への支援の在り方について協議した。また、専門相談課相談員がケアセンターふらっとの相談支援業務に同行し、具体的な業務内容および相談支援方法について共有した(全 6 日)。

東京都については、東京都心身障害者福祉センター高次脳機能障害相談員連絡会などに参加し、研修参加、情報共有、関係機関との連携を図った。(全 5 回)。

区西南部圏域については、連絡会議および研修(事例検討会)に参加し、研修参加、情報共有、関係機関との連携を図った(全 4 回)。

当事者が地域のイベントに参画したり、講演会で講師をするなどの啓発活動や社会参加の機会が少しずつ増えており、参加に向けた準備や同行などの支援を実施した。

地域のイベントでは、今年度は新たに「太子堂あんしんすこやかセンター」が主催する「認知症と共に生きるオレンジの日」に当事者と職員が参加した。外部からの講演依頼については、当事者と職員が協働で講演を行った。自主グループの活動に力を入れている当事者が区外の当事者会で講演をしたり、区外の自治体からの依頼で日々のリハビリテーションや地域での活動を紹介する内容で講演を行った。また、地域の中学校から毎年恒例となっている講演依頼を受け、失語症のある当事者が自身の体験を語る授業を行った。

④ 特定相談事業

80 名の計画相談利用者の障害状況は、主に高次脳機能障害のある方としているものの、精神疾患や若年性認知症の方も多く、加えて医療ケアが日常的に必要な方々もあり、幅広いケースワークが必要となってきている。疾病の重篤さに加え、背景にある家族の課題、経済的な課題など計画相談のみで担えることはなく、時に「住まいサポートセンター」「社会福祉協議会あんしん事業」など、障害者総合支援法では覆いきれない課題の当事者が増えてきている。

⑤ その他

- ・昨年度に引き続き運営委員会を年2回開催した。主な内容は「支援や介護を担う家族の高齢化問題」や「災害への備え」についてであり、様々な立場の運営委員から貴重なアドバイスを得た。
- ・虐待防止及び身体拘束適正化委員会を開催し、東京都の虐待研修を受講した。昨年度と同様に、研修受講者が施設内での伝達研修を実施し、身近な虐待について職員全員が「気づき」をもつ重要な機会となった。
- ・災害をより身近なものとして考え、「備え」についてのアンケートを実施した。

(4) 今後の課題

① 個別プログラムの充実

個別性に応じた支援内容やプログラムの充実を継続していく。昨年度以上に利用者と話し合う時間を増やし、希望や受傷後の生活の変化について詳しく確認する。ご本人、ご家族、関係機関、職員間でこれらの情報を共有し、共通理解を図っていくことでより充実したプログラムを目指す。

② 災害・感染対策への取り組み

これまで、発生してきた感染症や災害を経験した私たちが、アンケートを実施することにより「小さな気づき」（例えば、自宅で準備する物品の備え、避難する際の介助についての備え、福祉用具が駆動しなかった時の備え）等を利用者と共有し、更に個別支援計画への記載へと展開する。

③ 職員の補充

正規職員の不足が続いている。「ハローワーク」等の無料の求人機関だけでなく有料の民間企業を活用し、2025年度中に2名の欠員を埋める方向で動いていく。

2. ケアセンターwith（介護保険制度 地域密着型通所介護事業）

2024年度はコロナ禍前の生活に戻りつつある中、昨年度に引き続き外出活動等において十分な感染予防対策を適宜行ってきた。利用者では高次脳機能障害のみでなく、認知症や難病の方の利用が増え始めた。また、地域のなかで「困ったときの相談場所」「気軽に立ち寄れる場所」になることが、ケアセンターwithの役割と考え、今後も地域資源としての役割を具体化させていきたい。

(1) 基本方針

- ① 通所される方々が希望を持ち、その方が大切にしたい生活の一助となるよう事業に取り組んでいく。
- ② 事業にかかわる方々と共に、高次脳機能障害や認知症について学び、理解をすすめ、提供するリハビリテーション・プログラム等の環境整備につなげていく。

(2) 主な取り組みと進捗状況の報告

① 利用人数増にむけて

昨年度に引き続き、ケアセンターwithの事業所紹介や空き情報等をインターネット情報サイト(福祉専用事業所紹介サイト)に掲載・更新し、現在関わっているケアマネージャーや介護情報サイトへ1か月に1~2回程度情報提供を行った。その結果、現在関わるケアマネージャーからの利用者紹介も4名程度あった。

一方、加齢に伴う障害状況の変化や長期入院等のため退所者も多く、新規利用者数より退所者数が上回ってしまった。

② 職員のスキルアップ

利用希望者の障害状況が高次脳機能障害よりも認知症の方が多くなってきたため、非常勤も含めた職員ミーティングで「認知症支援」の理解に向けた研修を行った。

研修「若年性認知症の理解と支援」「知りたい若年性認知症 笑顔で暮らす」

(3)活動状況

① 利用されている方が持つスキルを生かした活躍の場作り

「自分の役割を持ちたい。」と思う気持ちは誰にでもある思い。認知症でいろいろなことを覚えたり、思い出したりすることが難しくなっても、“いまこの場でやれること”は多くある。外出時に車いすを押す、昔作っていたものをみんなに食べてもらう、初めて料理にチャレンジする…。ひとりひとりが主役となる活躍の場を多くの人たちが作ってきた。



② 苦手なりハビリも仲間と行くと楽しくなる

一人では実感や自信が持てないリハビリも、利用されている方同士、共に行うことで「楽しく」「積極的に」取り組むことができた。言語聴覚士とのグループセッションでは、身近なことを話し合う談話を通して言語機能の回復が可能となり、外出プログラムでは仲間と一緒に散歩することで歩行訓練を楽しく行えた。



③ 外出は充実した生活の糧となる

外出は誰もが楽しみとしている活動。自分が「出かけたいときに出かける」ことを目標に、多くの仲間と一緒に外出することで気分転換を図りながら運動機能などの維持・向上を目指した。

※外出時の写真



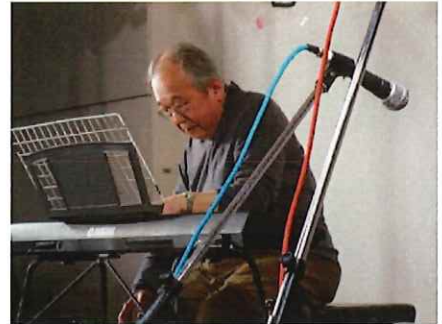
←(城南島公園)

(国立競技場)

主な外出先: 新宿御苑 山下公園 大森ふるさとの浜辺公園、サントリー美術館、国立近代美術館、写真美術館、グランツリー武蔵小杉、ノースポート 麻布台ヒルズ等

④ 地域交流のイベント参加を通じて、高次脳機能障害の理解を広げる

2024 年度も行われた当事者参加のイベント「春の音コンサート」(主催:世田谷高次脳機能障害連絡協議会)に、数名の利用者が参加した。本番前 2 ヶ月間の練習期間は皆さん本番さながらに熱心に練習に取り組まれていた。コンサートに出演されるご本人自らが、コンサート参加時に必要なヘルパーやスタッフに協力を依頼することがあった。ご本人の「出演したい」という思いが、スタッフへ協力を依頼するという主体的な行動につながったのかもしれない。ご本人の「～したい」を大切に、今後も主体的に参加することができる地域活動への参加をサポートしていきたい。



(4) 今後の課題

- ・ 2024 年度はコロナ禍前の生活に戻り、外出活動でも人の多い場所へ出かけていくことも増えた。利用されている方々の感染対策への協力もあり、ケアセンターwith からコロナなどの感染症に罹患した方もなく過ごすことができた。今後も引き続き感染対策としてマスクの着用と手洗いをお願いしていく。また、外出時の転倒等の事故防止のため、転倒リスクの高い方の情報を職員間で周知徹底する。より安全な外出場所の選定、職員等の増員による外出時の人手不足の解消を図り、安全を軸に利用されている方々の希望に沿ったプログラム展開ができるようにしていく。
- ・ 利用率向上への継続的な取り組みは重要課題のひとつ。居宅介護支援事業所への空き情報の発信回数を増やし、Instagramでの積極的な情報発信、パンフレットの作成による広報活動などを通じて、新規利用者の増加を図っていく。

3. ケアステーション連

2024 年度、介護報酬改定により訪問介護を含めた多くの基本報酬が変更された。この報酬改定により、年間約 40 万円の収入減となり収入面において大きな影響を受けたと言える。報道においても多くの事業所が収入減になったこと、休廃業する訪問介護事業が増えているというニュースが後を絶たない。多くの事業所において介護報酬改定に加え、人員不足も事業運営を難しくしている大きな要因と言える。

2024 年度、連においても正規職員への転職(1 名)、高齢による業務継続の難しさ(2 名)を理由に 3 名の退職があった。ヘルパーの高齢化が進む中、安定した事業運営を目指し人員を確保するため、今年度は様々な求人活動に取り組んだ。

介護報酬の引き下げによる収支への影響から「特定事業所加算」を継続して取得していくことは、事業所運営において、ますます重要となってくる。また「介護職員等処遇改善加算」及び「介護職員居住支援特別手当」は、処遇の改善を図るために今後も取得していく。介護報酬改定により研修や訓練など義務化されたものが 3 項目追加され、職員が行う必要のある業務が増えているが、人員確保と加算による収入確保の両輪を軸に事業運営を進めていくことが求められていると考える。

(1)基本方針

- ①利用者の心身状況・環境等に応じて、自立した生活ができるように支援する。
- ②当事者家族・関係機関等と連携をとり、多様なニーズへの対応をおこなう。
- ③利用者のみならず、家族等への支援もおこなう。
- ④チームケアを実践しながら、個別支援を充実させる。
- ⑤職員の技術の向上にむけて、キャリアに応じ多様な研修を実施する。

(2)主な取り組みと進捗状況の報告

①新規登録ヘルパーの確保

- ・今年度は採用に至らなかったが、「マイナビ」「セボネ」への掲載、「せたがや福祉のしごと相談・面接会」に参加するなど、複数の求人活動を行った。

②登録ヘルパーの育成と働きやすい環境づくり

- ・月1回ヘルパーミーティングを開催。
- ・7月に懇親会を開催し、ヘルパー同士の交流を深めた。



③所定の研修実施と、事故・ヒヤリハットについての検討・再発防止に努める

- ・事故等があった際には、必ずミーティングで再発防止の検討を行い、不参加のヘルパーにはミーティング内容と合わせて書面で情報共有を行った。
- ・研修計画に基づき、定められた研修・訓練を実施した。
- ・今年度から義務化となった感染症対策の強化の訓練として、手洗いチェッカーを使用し洗い残しがないかの確認を行い、感染症対策への意識づけをした。



(3)活動状況

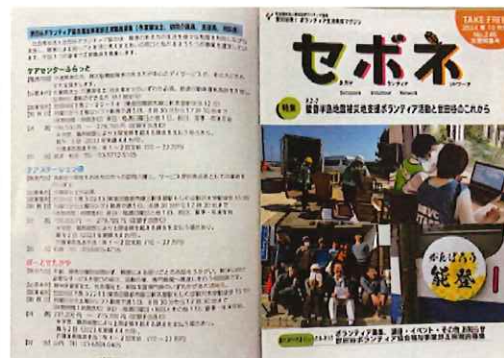
① ヘルパー確保に向けた求人活動

今年度は新しい求人活動を積極的に行った。世田谷区で開催している「せたがや福祉のしごと相談・面接会」へ10月と1月に参加。PR動画を作成し、事業所の紹介を行った。10月の参加では、他事業所(with)ではあるが1名の採用に繋げることができた。

また、「せたがや福祉のしごと相談・面接会」における求職者とのやり取りから、福祉関連の資格はないが福祉の仕事に興味がある方が一定数いることが分かった。このような状況をふまえ、少しでも多くの方をヘルパーとして雇用できるよう「介護職員初任者研修受講促進事業」を立ち上げ、無資格の方を雇用し資格取得をサポートできるよう整備した。



「マイナビ」では1年間のweb掲載を開始。他にも「セボネ」や催し物の際にヘルパー求人のチラシを配布する等した。また、今年度も世田谷区から「介護人材採用活動経費助成金」を受給し、求人活動に活用した。



② 幅広い障害種別、年代の利用者への対応

新規で契約した利用者は19名で、年代は小学1年生から80代まで幅広く及んだ。19名の内訳は、高次脳機能障害(6名)、発達障害(7名)、その他(難病や高齢等6名)となっており、発達障害の方の新規相談は年々増えてきている。新規相談の全てを受け入れられているわけではないが、さまざまなニーズに応えることができたと思う。

(4) 今後の課題

登録ヘルパーの高齢化が進んでいるため、人員の確保は急務となっている。今年度から始めた求人方法で、より幅広い年齢層に向けた求人活動につなげていきたい。在籍のヘルパーには、引き続き体調に留意してもらいながら、少しでも長く事業に携わっていただけるよう、その人が出来ること、得意なことが発揮できるような働き方を提案していく。

必須となる研修や訓練の項目が増えたことで、ヘルパーにもサービス提供以外に毎月何かしらの研修を受けてもらわなければいけない状況となった。今後も、ヘルパーに研修受講の理解と協力を得ながら、事業所全体のサービスの質向上につなげていく。

また、研修作成や管理などの作業が増えることで、正規職員の本来業務へ支障が出ないように研修計画等の作成を事業所内で分担し、業務負担の均衡を図っていく。

4. 「ケア相談センター結」(介護保険 居宅介護支援事業)

2024 年度も昨年度同様、協会の各福祉事業との連携を図りながら、地域における高齢者並びに障害者個々のニーズに対応し、その人らしい生活が送れるよう支援を行った。また、ケースによっては医療機関、区の生活保護担当、障害支援担当、地域支援担当部署等との連携を図った。高次脳機能障害のケースではケアステーション連、ケアセンターふらっと、ケアセンターWith との連携を持ちながら対応した。

(1) 基本方針

要介護認定を受けた利用者に対して、個々の解決すべき課題、心身の状況、おかれている環境等に応じた「保健・医療・福祉の総合的かつ効果的なサービス」を提供する。「利用者によるサービス選択」を主に、適正な居宅サービス計画及びマネージメントを展開する。

(2) 主な取り組み

① 適正な居宅サービス計画及びケアマネジメントの提供

要介護状態にある高齢者及び第2号被保険者に対し、一体的に介護サービスを提供するために、一連のプロセスをもとにサービス提供を行った。

①インテーク ②アセスメント ③ケアプラン作成 ④ケアプランの実施・管理

⑤モニタリング・再アセスメント⑥終結

これらのプロセスはPDCA サイクルを基本とし、計画を立て実行し、その結果を評価した上で改善・向上を図った。2024 年度 居宅サービス計画作成数 常勤1人あたり月 33.4 件

② 介護保険の更新申請代行

介護保険に関する更新申請代行件数 10 件。「新型コロナウイルス感染症にかかる要介護認定の臨時的な取扱い」による更新期間延長は廃止される。

③ ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

若年性認知症、難病、就労継続支援のケースなど関係各所との連携を持ちながら対応した。

関係機関等⇒各保健福祉センター生活支援課(生保担当)、保健福祉課障害支援、各地区あんしんすこやかセンター、医療機関MSWなど

(三宿病院、東邦大学大橋病院、成城リハケア病院、日産玉川病院、順天堂大学病院、東京医療センター、慈恵医大第3病院など)

④ 高次脳機能障害者の専門相談窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプランの作成

高次脳機能障害をもつ当事者及び家族の相談窓口として、介護保険制度に関する情報提供を積極的に行った。相談業務に関しては、「ケアセンターふらっと」と連携して行った。

(3) 活動状況

①ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

・【ケース 1】パーキンソン病で2号被保険者(63 歳)男性 要介護5 身障2級 障害区分6。

発症より18 年。発症後も仕事は続けていたが、60 歳で定年退職。

現在はパーキンソン症状の ON・OFF の日内変動が大きく、昼夜を問わず OFF 時には体動困難で介助負担も大きくなっている。

主治医との連携により服薬内容の細かな調整を行い、関わる2つの訪問看護ステーションが服薬管理、健康管理、入浴介助などを行っている。昨年は初めてショートステイを利用し、移動支援により娘さんの出演するヴァイオリン演奏会にも行くことが出来た。

・【ケース 2】若年性認知症(アルツハイマー型認知症:66 歳)男性 要介護 2 精神手帳 3 級

発症より10 年。発症当初は重度の記憶障害と多量のアルコール摂取により生活リズムの乱れが見られたが、ケアセンターふらっとの自立訓練コースの利用や地域密着型デイサービスケアセンター with の外出プログラムへの参加により徐々に生活も安定し、定期的なショートステイの利用も可能となり、介護者の負担軽減にもつながっている。

② 高次脳機能障害者の専門相談窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプランの作成

・【ケース 3】高次脳機能障害(右被殻出血)左上下肢麻痺 左半側空間無視、注意障害、遂行機能障害。2 号被保険者(63 歳男性) 要介護 5 障害区分 6 身障 1 級。

ご夫婦のみの生活で奥様は就労している。日中は障害のケアセンターふらっと、介護保険の通所リハビリを利用中。移動支援を利用しヘルパーと積極的に外出しており、将来的には電動車椅子の利用による生活圏拡大を目指している。発症する前に食べに行った三島のうなぎ屋に行くことが当面の目標。

- ・【ケース4】高次脳機能障害(左被殻出血)右上下肢麻痺 失語症。2号被保険者(64歳男性)
要介護2 身障2級。

ご夫婦のみの生活。介護保険の通所リハビリ(隔週1回)と障害サービスの就労継続支援B型施設へ週4日通っている。生活介護(ケアセンターふらっと)を利用後、前職に障害枠で復帰。60歳で定年を迎えて現在に至っている。現在は電動車椅子を利用し自立した生活を送っている。

(4)今後の課題

- ・居宅介護支援事業単独での経営が厳しい状況に変わりはない。一定の担当件数を維持しより安定した事業継続をしていくことが課題。また、業務量の増加によるケアマネージメントの質の低下防止の為、ICTを活用するなどさまざまな工夫も課題となる。
- ・適切なケアマネージメントを行うためには、利用者やその家族の生活を支え、継続して支援していくことが必要であり、担当者が信頼関係を損なわず継続してケアマネージメントを提供できるような複数体制でのバックアップ体制作りが課題となる。

5. 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや

2024年度も、世田谷地域(世田谷総合支所管内)において、障害があることにより困っている方々が、どのような希望をもった生活を送りたいかに耳を傾け、「困りごと」を把握し、解決に向けた支援につながるよう取り組んできた。

一つ一つの相談に丁寧に向き合ってきた結果、相談実人数は285人、相談件数は3,293件となった。相談者の年代も10～60代と幅広く、障害種別も様々であった。なかでも50代の相談は全体の31%を占め、ご本人への支援だけでなく、歳を重ねた家族への支援が含まれるケースもあった。同じ世代では、親亡き後の生活を心配し、今から準備できることはないかという相談も増えてきている。結果、ぽーとのみで支援をすすめることは難しく、地域の様々な分野の関係機関と協力し、共に考えながら支援をすすめてきた。

このような状況から、障害分野だけではなく高齢、若者、生活困窮者支援など多くの分野の関係機関と連携を強化するための取り組み(地域包括ケアシステムの推進)に力を入れてきた。

また、相談者の希望に合わせ活動を組み立てていく「ちゃお」の実施、エリア自立支援協議会、特定相談連絡会の開催を行ってきた。「スペースココカラ。」は居場所機能や相談スペースとしても多くの利用があり、延べ来所者数は997名になった。今後も、様々な活用ができる拠点として取り組みを進めていく。

(1) 基本方針

世田谷地域(世田谷総合支所管内)に暮らす相談者の声に耳を傾け、その方が生きてきた道のり、考えや思いを尊重し、希望する暮らしに近づくよう共に考え、模索しながら相談支援を行う。また、障害の有無にとどまらず、子どもからお年寄り、福祉事業に携わる方々、様々な営みを続ける地域の方々(町会・商店街・大学等)それぞれの力をかりながら、誰もが存在することを許され、お互いを認め合い、助け合う“つながり”が地域のなかに生まれるよう事業を運営していく。

(2) 主な取り組みと進捗状況の報告

① 相談する方が、いつでも安心して話せるための取り組み

ア.「スペースココカラ。」の活用

- ⇒ 通所先から自宅に帰る途中に立ち寄り、家から離れて過ごしたい、少し誰かと話したいなど、人それぞれニーズは異なるが、安心して話すことができる場として延べ997名の利用があった。

イ. 相談者が主体的に参加する活動「ちゃお」の実施

⇒ ごきんじょ市、おたがいさまフェスタ、極楽フェスなどのイベントへのボランティア参加、得意なことを生かした手芸クラブの開催など、ぽーとの相談者が主体的に参加できる企画を開催した。
ア、イの活動を通し、相談者と共に過ごすことで、小さなことでも安心して話せる関係を育んできた。

② 障害のある方も、支援者も、地域で暮らしている方も共に参加できる「場」や「活動」づくり

ア. 「ちゃお」の実施

⇒ ぽーとが主催するごきんじょ市、地域で行われるイベントやあんしんすこやかセンターを中心に開催される企画でのボランティア活動、手芸クラブの開催など相談者が主体的に参加できる企画と一緒に話し合いながら組み立て、合計 20 回開催、延べ 43 名の方が参加した。

イ. 「ごきんじょ市」の開催

⇒ ボランティア・市民活動推進部と協働し 8 回目となるごきんじょ市を開催した。商店街の方々、学生、障害のある方を含めた多くのボランティアに支えられ 3,800 名もの方が来場された。
ぽーとの相談者もボランティア、お客さんなどそれぞれの形で 18 名の方が参加した。



＜ごきんじょ市にデイサービス利用の方がボランティア参加＞

③ 区民に地域障害者相談支援センターを知ってもらい、相談につながるための取り組み

ア. ボランティア・市民活動推進部と協働し、セボネ、協会 HP を活用した情報発信を行った。

イ. 「ぽーとからのお知らせ」を協会 HP、SNS(メール)を活用し定期的に情報発信した。

(3) 活動状況

① 基本相談支援

相談に来られた方が安心して話すことができ、何に困り、どのような生活を送りたいかに耳を傾け、「困りごと」を把握し、解決に向けた支援につながるよう取り組んだ。

ア. 相談実人数 : 285 人

イ. 相談件数 : 3,293 件

ウ. 拠点「スペース ココカラ。」の活用:延べ 997 名が来所

② 地域包括ケアシステム推進に向けた対応

年齢も障害も立場も関係なく、みんながゆるりと集まり知り合えるきっかけを目的とした「ごきんじょ市」の企画・開催。ふるさと区民まつり、雑居まつり、極楽フェスなど地域の企画にも障害当事者と共に参加した。

ア. 「ごきんじょ市」の開催

イ. 法人主催事業「おたがいさまフェスタ」へ参加

ウ. 地域イベント「区民まつり」「雑居まつり」「極楽フェス」へ参加

エ. 池尻あんすこ「にんにん会」へ参加

① 各地区にて開催されるケアマネ連絡会へ参加

② 各地区にて開催される、あんすこ主催の地域ケア会議へ参加(33 回)

③ エリア自立支援協議会の事務局

「障害のある方も、希望をもって暮らすことができる地域をと もに考える」をテーマに、障害当事者、様々な業種の支援者が言葉を交わし、協議し、以下の活動、企画を開催した。

- ア. 運営委員会の開催(11 回)
- イ. 地域の居場所「よりどころ」(4 回)
- ウ. 課題抽出シートを用い、委員会で協議し事例から地域課題を見える化した。



＜よりどころ：ボッチャ大会を開催。＞

4 施設から 20 名ほどが参加してくれた＞

エ. 指定相談事業者への支援

各指定相談事業所との連携をもちながら、各事業所の特徴を生かし、利用者にとって適切な計画相談が実施できるよう以下の取り組みを実施した。

- ① 事業所連絡会の実施(2 回)
- ② 精神科訪問医を交えた事例検討会の実施

(4)今後の課題

ここ数年、年間 300 名近くの方からご相談をいただき内 6 割が新規の相談者という傾向が続いている。この傾向は、地域のなかでぽーとの役割、対応力が認められ、関係機関や区民から頼られている表れとも感じる。当然、新規相談が増えるに伴い、相談内容、年代、障害種別は多様化し、ますます丁寧な支援が求められてきている。

このような状況下で、複雑、多様化する相談をうける職員へのメンタルヘルス対応は必要性を増している。

メンタルが疲弊しないようミーティング等を活用し、チーム内でのコミュニケーションを密にし、必要に応じ個別相談の時間も設けていく必要もある。次年度以降も、相談者が安心して話することができるためには、相談支援を担う職員も安心できる環境づくりに取り組んでいく必要があると感じている。

6. パートナーセンター事業

「パートナーセンター」は、認知症と障害のある当事者(以下、「当事者」とする)と、まだ当事者となっていない地域住民や関係者とが双方向に力を出し合い、お互いを支え合う地域の中の仕組み作りを活動の主目的としている。

(1)基本方針

- ①共に活動するパートナーのコーディネート(紹介・仲介・同行)
- ②当事者の抱える問題について相談を受け、同様の悩みを持つ当事者や支援機関と連携
- ③認知症・障害に関する啓発活動(当事者による情報発信)
- ④認知症・障害当事者の活動の場の創出及び地域資源との連携

(2)主な取り組みと進捗状況の報告

毎月運営委員会を開催し、当事者運営委員と事業担当職員、障害当事者のパートナー(同行スタッフ等)などで活動内容などを検討した。コロナ禍の状況を勘案しながら地域のイベントへ参加したり、独自企画として「高尾山登山」と「お花見」を実施した。

そして、活動拠点である「スペース ココカラ。」にて、パートナーセンターが古本リサイクルに取り組む「文庫屋」を運営した。運営委員 1 名が毎週木曜日に文庫屋の「店長」の役割を担っている(文庫屋の寄付金収入;約 24,000 円)。

活動状況は 2023 年度より開始した SNS(Facebook、Instagram)では、週に 1~2 回の頻度で日々のパートナーセンターの活動や講演会やイベントの告知を目的に情報発信を行った。2025 年 3 月末の時点で、フォロワーは合計で 276 名となり、地域の障害当事者や関係者だけではなく、東京都外の人たちからも閲覧されている。

(3)活動状況

①運営委員会

2024 年 4 月から 2025 年 3 月まで、「スペースココカラ。」にて 10 回実施した。運営委員として障害当事者の方が延べ 29 名、障害当事者のパートナー(同行スタッフ等)が延べ 23 名参加し、テレビ会議システムも併用した。

②地域のイベントへの参加

太子堂あんしんすこやかセンター主催の「認知症と共に生きるオレンジの日」、法人主催の「おたがいさまフェスタ」、「ごきんじょ市」、地域で開催された「せたがや区民まつり」「雑居まつり」に参加し、「ぽーとせたがや」と連携してリサイクル・バザーや食品販売、ボッチャ体験などで出店をした。障害当事者と運営委員が延べ 11 名参加し、来場者と交流しながら、広報活動も行った。



③パートナーセンター企画

運営委員会での話し合いを経て、自主企画として「高尾山登山」を 2 回(うち 1 回は若年性認知症家族会と共催)と「お花見」を実施した。障害当事者と運営委員が延べ 23 名参加した。



④スペース ココカラ。

当事者運営委員 1 名が毎週 1 回、「文庫屋」を担当し、古本リサイクルだけではなく、訪れた障害当事者や認知症当事者、福祉関係者などと交流をした。当事者自らが自身の体験を通じた助言や提案などをするなど、ごく自然なピア・カウンセリングの場となっている。

⑤啓発活動

世田谷区内で居場所事業行っている団体が交流や啓発活動を行う「居場所サミット 2024」に当事者と職員が登壇した。障害のある人にとっての居場所の目的や活用の仕方など、体験から気づいたことを発表した。



(4)今後の課題

①活動内容の充実

拠点である「スペース ココカラ。」を中心に、地域のイベントに積極的に参加するなど、当事者が中心となって活躍できる場をさらに広げていく。「文庫屋」は当事者が主体的に運営できるように運営委員会を中心に取り組み、前年度以上の寄付金収入が上がる方法を検討する。

また、当事者が担える地域の中にある「仕事」(役割)と繋がることができるよう、パートナーセンターを広報しながら、「太子堂あんしんすこやかセンター」や「世田谷区認知症在宅生活サポートセンター」と協働した事業や企画を検討する。

②活動資金の調達

独自の活動資金を確保するため、2025 年度より、当事者が講師となる講演会などを企画・開催し、その参加費などを事業収入とする仕組み作りを検討して実施していく。

さらに、助成金の申請や寄付などの働きかけを行い、収入の確保を進めていく。

*福祉事業部の実績データ・資料は以降に掲載

2024年度 福祉事業部 実績報告

(1) 利用者の状況

①登録利用者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		46	9			
	With	地域密着型通所				48
		48				
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	
		30	47	79	19	175
相談	結	居宅介護支援				
		49				49
	ぽーと	地域相談				
		285				285
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			
		80	88			168
合計登録者数						780

②性別

部門	事業所	事業名								計
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練						
		男性	女性	男性	女性					
		25	21	8	1					
	With	地域密着型通所								48
		男性	女性							
訪問	連	介護保険		総合支援法		移動支援		自由契約		175
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
		11	19	26	21	38	41	9	10	
相談	結	居宅介護支援								49
		男性	女性							
		29	20							
	ぽーと	地域相談								285
		男性	女性	不明						
		141	137	7						
	ふらっと	特定相談支援		高次脳専門相談						168
		男性	女性	男性	女性					
47		33	57	31						
合計数		男性	427	女性	346	不明	7	780		

③年代別

部門	事業所	事業名																計
通所	ふらっと	生活介護				自立訓練												55
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上									
			12	34			2	7										
	With	地域密着型通所																48
		50代以下	60代	70代	80代以上													
		2	13	28	5													
訪問	連	介護保険				総合支援法				移動支援				自由契約				175
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	
		0	2	15	13	0	16	31	0	2	20	50	7	1	2	7	9	
相談	結	居宅介護支援																49
		10代	20～40代	50～60代	70代以上													
		0	2	20	27													
	ぽーと	地域相談																285
		1～20代	20～40代	50～60代	70代以上	不明												
		11	110	125		39												
	ふらっと	特定相談支援				高次脳専門相談												168
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	不明								
		0	33	47	0	2	35	40	3	8								
合計数		10代		18	20～40代		247	50～60代		404	70代以上		64		不明	47	780	

④新規利用開始者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		7	7			
	With	地域密着型通所				3
		3				
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	19
		3	2	12	2	
相談	結	居宅介護支援				6
		6				
	ぽーと	地域相談				166
		166				
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			42
		4	38			
合計新規利用開始者数						250

⑤退所・契約終了者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		12	6			
	With	地域密着型通所				4
		4				
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	29
		3	8	15	3	
相談	結	居宅介護支援				10
		10				
	ぽーと	地域相談				0
		0				
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			11
		11	0			
合計退所・契約終了者数						72

⑥利用率

部門	事業所	事業名			
通所	ふらっと	生活介護 (20名)	自立訓練 (6名)		
		87.6%	92.4%		
	With	地域密着型通所 (18名)			
		68.8%			

※ () 内の数字は、1日当たりの利用定員数

⑦送迎

部門	事業所	事業名		
通所	ふらっと	生活介護		
		委託送迎 台数	自主送迎 台数	回数
		3	3	5315
	With	地域密着型通所		
		委託送迎 台数	自主送迎 台数	回数
		0	3	1821

(2) ボランティア・実習生の状況

①ボランティア人数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			241
		241				
	With	地域密着型通所				25
		25				
	ぽーと	地域相談				43
		43	←ぽーとの相談者がボランティアとして参加した人数(ちゃお26回)			
合計ボランティア延べ人数						309

②実習生数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			95
		95	0			
	With	地域密着型通所				0
		0				
訪問	連	事業全体				0
		0				
相談	ぽーと	地域相談				0
		0				
合計実習生延べ人数						95

(3) 職員体制 ※兼務者を含む人数

部門	事業所	職種														計		
通所	ふらっと	管理者		サービス管理責任者		支援員		相談員		看護師		専門職		事務		運転手 清掃員		22
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	
			1	3		2	5		1		2		5		1		2	
	With	管理者		サービス管理責任者		支援員		相談員		看護師		専門職		事務		運転手		14
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	
		1				3	3	3			1		1		0		2	
訪問	連	管理者		サービス提供責任者		登録ヘルパー		相談員		看護師		専門職		事務				31
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
		1		3			26							1				
相談	結	管理者				支援員		相談員		看護師		専門職		事務				3
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
		1			2													
	ぼーと	管理者		相談員		事務員												7
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時											
		1		3	1		2											
	ふらっと 特定相談	管理者		相談員		事務員				ふらっと 高次脳相談		管理者		相談員		事務員		8
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	
		1		1	3					1			2					
合計数																		85

2024年度 福祉事業部 実績報告

(4) 職員研修

部門	事業所	月	研修名	主催団体	参加人数	計
通所	ふらっと	5	高次脳機能障害 支援に役立つ高次脳機能障害に関する基礎知識	世田谷区	1	33
		5	注意障害と遂行機能障害	区西南部高次脳機能障害者普及事業支援センター	2	
		5	車椅子の基礎	世田谷区福祉人材育成 研修センター	1	
		6	防火・防災管理新規研修	(1財)日本防火・防災協会	1	
		7	介護技術研修「再点検！移乗介護 我流介護になっていませんか？」	世田谷区福祉人材育成 研修センター	1	
		7	感染症対応研修	福祉事業部	3	
		8	てんかん基礎講座	公益社団法人 てんかん協会	1	
		10	国際福祉機器展	全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会	1	
		12	虐待防止・権利擁護研修(伝達研修)：意思決定支援	内部研修	1	
		1	虐待防止・権利擁護研修(伝達研修)：意思決定支援	内部研修	20	
		2	高齢者虐待対応研修「経済的虐待」	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
	With	5	若年性認知症の人とあゆむ 就労継続支援B型の新たな取り組み	全国若年認知症協議会	1	6
		7	食品衛生講演会	世田谷区保健所	1	
		8	失語症の人が生きる力を引き出すには	NPO法人 言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音	1	
		9	認知症ケア研修 制度の理解「権利擁護について」	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		9	医療連携・福祉事業部講演会「どうする嚥下障害」	世田谷区医師会	1	
		2	令和6年度 高齢者虐待防止研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	
		5	接遇の基本「表情と挨拶」	内部：全体研修	28	
			ポジショニングとは	個別：内部	2	
			薬の飲み合わせ	個別：内部	1	
			口腔ケア	個別：内部	1	
			知っておきたい病気	個別：内部	1	
			老獺による変化	個別：内部	1	
			適切な調理法	個別：内部	1	
			ヘルパー体験談	個別：内部	1	
		6	介護保険制度を学ぶ	個別：内部	1	

訪問

連

	利用者・家族とのコミュニケーション	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	介護職が学ぶフットケア	世田谷区福祉人材育成・研修センター	2
	医療的ケアについて	個別：内部	1
	クレーム対応	個別：内部	1
	車椅子の基礎	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	高次脳ガイドヘルパー	世田谷区保健センター	1
7	感染症対策研修	福祉部	2
	災害の備え	個別：内部	1
	熱中症対策	個別：内部	2
	薬の飲み合わせ	個別：内部	1
	傾聴を中心に考える	個別：内部	1
	認知症の医学的視点からの理解と支援	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	障害の理解	個別：内部	1
8	清拭を学ぶ	個別：内部	1
	高齢者に多い病気	個別：内部	1
9	感染症予防	全体：内部	28
	基本視点と技術の確認	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
10	事故再発防止	全体：内部	28
	精神障害の理解と支援	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	高齢障害者の支援を学ぶ	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	脳損傷後のてんかんの付き合い方	東京都高次脳機能障害リハビリテーション講習会委員会	1
11	虐待防止「セルフネグレクトへの支援」	全体：内部	28
	依存症の基礎知識	世田谷区福祉人材育成・研修センター	3
1	在宅介護を続けるための認知症ケア	全体：内部	28
	相談援助について学ぶ（基礎編）	世田谷区福祉人材育成・研修センター	2
2	業務継続計画	全体：内部	28
	業務継続計画（訓練）	全体：内部	28
	感染症対策（訓練）	全体：内部	28
	倫理・法令遵守	全体：内部	28

316

		3	緊急時対応	全体：内部	28	
相談	結	5	認知症ケアの理念と視点	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	5
		5	注意障害と遂行機能障害	区西部高次脳機能障害者支援センター	1	
		10	障害副士の理解「高齢障害者への支援を学ぶ」	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		1	高次脳機能障害のリハビリテーション	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		2	居宅介護支援事業所管理者向けマネジメント支援研修＜全9回＞	東京都介護支援専門員研究協議会	1	
	ぽーと	5	基本相談スキルアップ研修	障害保健福祉課・基幹相談支援センター	1	15
		6	東京都相談支援従事者現任研修	東京都	1	
		6	令和6年度 初任職員研修	障害保健福祉課	1	
		6	基本相談スキルアップ研修	障害保健福祉課・基幹相談支援センター	1	
		7	基本相談スキルアップ研修	障害保健福祉課・基幹相談支援センター	1	
		8	介護技術研修「基本視点と技術の確認」	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		9	高次脳機能障害がある子どもの理解	東京都福祉局	1	
		9	話し合いを円滑に進めるためのファシリテーションを学ぼう	障害保健福祉課・基幹相談支援センター	1	
		10	病気や事故などで脳が損傷したあとの気になる症状について	世田谷区保健センター	1	
		10	基本相談スキルアップ研修	障害保健福祉課・基幹相談支援センター	1	
		12	相談援助の記録の書き方	保健福祉政策部 保健医療福祉推進課	1	
		2	精神障害者の理解と精神病院からの地域移行	世田谷区障害保健福祉課 基幹相談支援センター	1	
		2	権利擁護研修	成年後見センター	2	
		2	障害福祉サービス事業者向け虐待防止研修	世田谷区障害施策推進課	1	
	ふらっと 相談事業	5	「注意障害と遂行機能障害」	日産玉川病院	2	6
		7	「高次脳機能障害の基礎理解」	東京都心身障害者福祉センター	1	
		8	「小児期の高次脳機能障害の理解と対応」	東京都心身障害者福祉センター	1	
		9	「高次脳機能障害の方を支える制度の概要と社会資源について」	日産玉川病院	2	
合計研修参加数					381	

IV. 組織推進部

2024 年度からの新たな中期計画では、協会のめざす姿を『だれでも、地域社会の中で支え合いのつながりを持つことができ、互いに尊重し合って、安心して自分らしく暮らすことができる社会』として、各部で重点事業を設定し、2027 年度までの4か年間の具体的な取り組みを定めている。

組織推進部としては、「安心して働き続けることのできる職場環境づくり」と「業務デジタル化の整備・推進」を重点事業とし、1 年目の 2024 年度は、職場環境の整備について、人事・給与関連の規程等の改定を継続的に進めるとともに、勤怠管理システムの電子化を図った。また、安定的な財源の確保を図る取り組みとして、寄付金受け付けのポータルサイトを開設し、24 時間受け付け可能な寄付サイトの運用を開始した。

1. 組織運営

理事会、評議員会、常任理事会等を開催し、円滑な法人運営を進めた。理事会、評議員会での上半期事業報告では、中期計画における各部の取り組み状況や今後に向ける報告を行なった。

① 理事会の開催

法人の執行機関として理事及び監事の出席のもと以下決議、報告を行った。

回数	開催日	議決事項 及び 報告事項
第1回	6/6	議決事項 ① 2023年度事業報告案・決算案について ② 2024年度第1次補正予算案について ③ 理事候補者の推薦について ④ 評議員候補者の推薦について ⑤ 役員等賠償責任保険契約について ⑥ 個人情報保護規程の一部改定について ⑦ ケアセンターふらっと運営規程類の一部改定について ⑧ 法人指導監査の是正事項に関する改善について ⑨ 2024年度定時評議員会の招集事項の決定について 報告事項 ① 2023年度予算流用について ② 2023年度予備費の使用について ③ 役員災害補償保険の加入について ④ 社会福祉充実計画の試算について
第2回	7/31	議決事項 ① 常務理事の選定について * 議決の省略(書面議決)
第3回	11/5	議決事項 ① 2024年度第2次補正予算案について ② 寄附金品取扱規程の制定について ③ クレジットカード取扱規程の一部改定について ④ 経理規程の一部改定について ⑤ 文書管理規程の一部改定について ⑥ 職員給与規程の一部改定について ⑦ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部改定について ⑧ 臨時職員就業規則の一部改定について ⑨ ケアセンターwith 運営規程の一部改定について ⑩ 2024年度第2回評議員会の招集事項の決定について ⑪ 再雇用職員給与規程の一部改定について

		報告事項 ① 2024年度上半期(事業・中間決算)報告について
第4回	3/13	議決事項 ① 2024年度第3次補正予算案について ② 任期満了に伴う評議員候補者の推薦について ③ 任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任について ④ 2025年度事業計画書案および予算書案について ⑤ ケアステーション連 自由契約サービス実施規程の制定について ⑥ ケアステーション連 運営規程の一部改定について ⑦ ボランティアセンター及びボランティアビューローの利用に関する規程の改定について ⑧ 育児・介護休業等に関する規則の一部改定について ⑨ ケアセンターふらっと施設長の任免について ⑩ 職員給与規程の一部改定について ⑪ 2024年度第3回評議員会の招集事項の決定について 報告事項 ① 2025年度理事会の開催予定について

② 評議員会の開催

法人の議決機関として評議員の出席のもと以下決議、報告を行った。

回数	開催日	議決事項及び報告事項
定時 (第1回)	6/25	議決事項 ① 2023年度事業報告書案・決算書案について ② 理事の選任について 報告事項 ① 2024年度第1次補正予算について ② 2023年度予算流用について ③ 2023年度予備費の使用について ④ 個人情報保護規程の一部改定について ⑤ ケアセンターふらっとに関する運営規程の一部改定について ⑥ 法人指導監査の是正事項に関する改善について ⑦ 役員等賠償責任保険及び役員災害補償保険契約について ⑧ 社会福祉充実計画の試算について
第2回	11/22	議決事項なし 報告事項 ① 2024年度第2次補正予算について ② 寄附金品取扱規程の制定について ③ クレジットカード取扱規程の制定について ④ 経理規程の一部改定について ⑤ 文書管理規程の一部改定について ⑥ 職員給与規程の一部改定について ⑦ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部改定について ⑧ 臨時職員就業規則の一部改定について ⑨ 再雇用職員給与規程の一部改定について ⑩ ケアセンターwith 運営規程の一部改定について ⑪ 2024年度上半期(事業・中間決算)報告について

第3回	3/28	議決事項なし 報告事項 ①2024年度第3次補正予算について ②任期満了に伴う評議員候補者の推薦について ③任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任について ④2025年度事業計画及び予算について ⑤ケアステーション連自由契約サービス実施規程の制定について ⑥ケアステーション連運営規程の一部改定について ⑦ボランティアセンター及びボランティアビューローの利用に関する規程の改定について ⑧育児・介護休業等に関する規則の一部改定について ⑨ケアセンターふらっと施設長の任免について ⑩職員給与規程の一部改定について ⑪2025年度の評議員会の開催日程について
-----	------	---

③ 評議員選任・解任委員会の開催

欠員となっていた評議員の後任として、第1回理事会にて推薦された評議員候補者について評議員選任解任委員会を開催し評議員を選任した。

実施日:2024年11月15日(金)

④ 常任理事会の開催

法人の日常的な業務や各部の業務執行状況について審議するため、月に1回開催した。

(構成員:理事長、常務理事/事務局:各部長等)*年度内12回実施。

⑤ 監事監査の実施

2023年度の法人運営について経理・会計処理の確認と、事業内容について監事による監査を実施した。実施日:2024年5月30日(木)

⑥ 部長会の開催

各事業部間の情報共有と事業執行上の課題を協議するため、事務局長、各部長で構成し、毎月1回開催した。

⑦ 衛生委員会の開催

産業医の指導のもと、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保するため、定期的に委員会を開催した。(年6回)

(委員長:統括管理補助者1名、委員:産業医1名、衛生管理者1名、衛生経験者4名計7名)

⑧ 産業医による職場巡視の実施

産業医と衛生管理者が拠点施設ごとに各職場を訪問し、職場環境の確認や職員から直接話を聞き取り、労働衛生環境の点検や各職場の労働環境の改善を行った。

7月:下馬3丁目(サザン三軒茶屋)拠点(with、ぽーとせたがや、連、結の4職場)

10月:(玉川ボランティアビューローの1職場)

12月:(世田谷ボランティアセンター及びケアセンターふらっとの2職場)

2月:(北沢ボランティアビューローの1職場)

⑨ 健康診断の実施

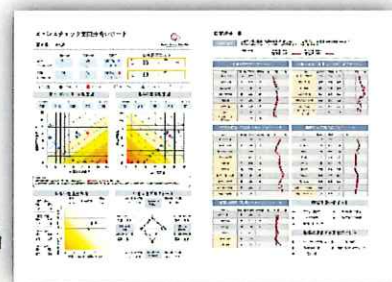
職員の健康維持増進・健康管理のため、雇用保険の対象となる職員を対象に健康診断を実施した。これまでオプション健診としていた35歳以上で発症リスクが高くなる婦人科系の癌健診を無料化し、受診を勧めた。健診結果は産業医に報告し、必要に応じて個々に指導を行った。実施報告については労働基準監督署へ提出した。

実施時期:9月~12月 対象人数:60名 受診者数:60名

⑩ ストレスチェックの実施

職員のセルフケア対策として自身の心の状態を知ってもらう目的でストレスチェックを実施した。実施報告書については労働基準監督署へ提出した。また、衛生委員会において集団分析結果などの報告を行い、各職場における職員のストレス傾向などを共有した。

実施時期:12月18日～1月24日 対象人数:61名 受検者数:49名
実施方法:WEBとマークシート方式の併用



<集団分析の結果報告>

⑪ 消防訓練の実施

火災や地震に備えて、四半期ごとにパーム下馬(複合施設)の各拠点(センター、ふらっと、下馬福祉工房、職員住宅)と合同で消防訓練を実施した。

実施日 6月26日:「ネットで消防訓練」の活用

*東京消防庁のホームページにある WEB 訓練

9月18日:地震総合訓練

11月29日:火災総合訓練

3月28日:「ネットで消防訓練」の活用

※各総合訓練は、初期消火、通報、避難誘導等の訓練と想定(火災や地震)を組み合わせ実施した。

2. 事務局運営

当協会は部ごとに異なる事業展開をしており、それぞれの部ごとに必要となるスキルについては研修を実施している。組織の一員として必要となる職制ごとの学び、コンプライアンスの遵守、ハラスメントなどについて正しく理解をしてもらうことは、円滑に業務を行う上で重要になる。また、団体からの後援名義申請の対応や、文書の適正な管理について以下のとおり実施した。

① 職員研修の実施

組織の一員として守るべき規範や、職層ごとに身に着けるべきスキルを確実に身に付けられるように研修を計画的に実施した。これまで実施してきたオンデマンド研修を年間の研修カリキュラムとして職制別に研修計画を提案していく。

また、適宜、リモートを含む外部研修への参加を促し、研修成果が業務に生かされるよう伝達研修の実施も併せて推奨していく。

※組織推進部におけるスキル研修

労務管理研修、社会福祉法人会計実務研修、社会福祉法人会計決算研修、公正採用人権啓発推進委員研修等

ア. 内部研修の実施(インターネットを活用した職員研修、オンデマンドDVDの運用)

職位職制ごとの研修をはじめコンプライアンスやハラスメントに関して、具体的なエピソード等を教材にしたDVD教材を活用し、適宜、該当職員に周知し視聴研修を実施した。

特に、新規採用の職員に対しては、新人職員研修として、心構え(報告・連絡・相談)等のマナー研修やコンプライアンス研修の視聴を実施した。



また、中堅職員にはリーダシップやハラスメント関連等の研修を実施するとともに、管理職には管理監督者として求められる役割やコーチング研修等の案内を行い適宜視聴を促した。

インターネットを活用することでいつでも視聴できるため、計画的な視聴(研修)が実施できるよう研修カリキュラムを組んで実施した。

<自席でのインターネット研修>

研修カリキュラム *各自年間で受講科目・時期を設定し研修を進める

職層 分野	新人～3年未満	3年以上～中堅	主任以上～指導・管理職
業務スキル	報連相の基礎知識	成果がかわるPDCA	コーチングに学ぶ人材育成
業務マインド	社会人のマナー等	実力養成P 組織変革の考え方等	管理職の役割と業務 管理職としての行動等
職員指導		新人職員の育て方・伸ばし方	部下の実力を高める OJT
コンプライアンス理解	行動・発言のコンプライアンス違反事例から学ぶ等	コンプライアンス違反の事例研修	・危機管理対応 ・コンプライアンスの必要性等
ハラスメント	・意識改革 ・社会人としての正しい考え方等	・危機管理対応 ・ハラスメント理解と防止対策	上司のハラスメント事例から学ぶ
情報セキュリティ	・社会人としての正しい考え方等 ・メール、SNSの取扱い	ソーシャルメディアのリスク管理	・危機管理対応 ・情報セキュリティの対策
法令知識	法令違反事例から学ぶ	コンプライアンス違反をなくすための方策と行動	法令違反とコンプライアンス違反の対応等
ダイバーシティ	さまざまな働き方への理解促進	求められるうつ病への理解	ケース検討 マタニティ・ハラスメント
メンタルヘルス	・メンタルヘルス・マネジメント・職場内のコミュニケーション		

イ. 外部研修等への参加

担当職員に外部研修への参加を奨励し、会計及び総務分野でのスキル強化に取り組んだ。

② ボランティアグループ・福祉団体等への後援

地域団体や NPO 団体、福祉施設等から後援名義の申請があった場合に、区内を中心に行われる催しについては、以下のとおり後援名義を許可した。

実施日	事業名	主催
4/28	わくわくシアター2024	こども劇場せたがや
5/25	第5回 せたがや居場所サミット	「せたがや居場所サミット」実行委員会
9/28	第19回 パイ焼きまつり	社会福祉法人 はる
10/13	第49回 雑居まつり	第49回雑居まつり実行委員会

③ 文書管理の適正化

文書管理規程に則り、適正な管理・保管を図り、保存期限切れの文書や不要書類の廃棄を進めた。

3. 財政運営

各事業を継続的に運営していくためには、安定した財源の確保は不可欠となる。福祉事業部については介護報酬(基本報酬)の引き下げが行われ事業収益が大きく減少する中、介護事業従事者の処遇改善を目的とした国や東京都からの新たな手当の給付も開始された。福祉事業部以外の事業については、世田谷区からの補助金を受けて組織運営を行っている。また、当協会の強みが活かされる世田谷区からの委託事業については積極的に受託できるよう努めた。一方で、事業やプログラム運営に関わる経費の多くは、自主財源や参加費

収入、リサイクル・リユース活動の一環で行っているバザー等の収益を充てている。更に各部の取り組みを様々な手法でアピールすることで、寄付金拡充に努めている。

① 財源の確保

ア. 協会支援者の拡大と新たな財源の確保

当協会への寄付については、これまで窓口で直接受け付けする方法と郵便振替用紙による郵便局での振り込み方式による対応が主な取扱いとなっていたが、時間や手間もかかり、電子決済が一般的になる中で新たな寄付者の獲得につなげるため、当会のホームページやインターネット上の寄付受け付けのポータルサイトからクレジットカードやキャッシュレス決済で寄付ができる仕組みを構築した。

寄付金については、福祉事業では福祉サービス利用をされている家族等から、事業活動に役立てて欲しいという寄付や、チャイルドライン事業における寄付キャンペーン等を通じて毎年寄付を下さる方も多くある。

また、区内企業からは毎年高額の寄付を頂戴しており、これら寄付は協会の様々な活動に活用させていただいている。

寄付金の推移

年度	2020	2021	2022	2023	2024
法人全体	466万円	367万円	361万円	576万円	282万円

*2023 年度実績は能登半島地震被災地支援の募金(1,233,360 円)を含む



<高額寄付に理事長から感謝状を進呈した>

イ. 区との連携

当協会の事業運営において、世田谷区からの財政的な支援状況については以下のとおりとなった。

区民のニーズを的確に把握しつつ、各事業の質を向上させ、適正かつ効果的に求められる以上の成果が上げられるよう取り組んだ。

補助金については、ボランティア・市民活動推進事業および法人運営のために1億1,567万円余、ケアセンターふらっとの運営のために6,720万円余の補助金が交付された。また、事業費としてもボランティア・市民活動推進事業へ市民活動支援事業として150万円が交付された。

なお、福祉施設における物価高騰や福祉人材の確保等についての緊急支援として、「緊急安定経営事業者支援給付」として福祉事業部の4拠点事業については、合計290万円余が交付され、ケアステーション連には介護人材採用活動経費助成として10万円が交付された。ケアセンターふらっとについては福祉施設等支援助成として車輛購入費用の一部助成として150万円が交付された。

経常経費補助金収入の推移

年度	2020	2021	2022	2023	2024
法人全体	1億5,715万円	1億6,440万円	1億6,575万円	1億7,426万円	1億8,889万円

委託事業費については、協会の専門性を生かして次の委託事業を積極的に受託した。

- ・世田谷区災害時ボランティア受入体制整備事業委託
- ・地域障害者相談支援センター事業委託
- ・世田谷区移動支援事業委託
- ・世田谷区高次脳機能障害支援促進事業委託
- ・世田谷区採用1年目、技能1年目「障害福祉体験」研修実施委託
- ・NPO活動者向け相談事業委託

ウ.バザー収入

バザー収入は、ボランティア・市民活動推進事業とチャイルドライン事業の重要な財源となっている。

2024年度についても徐々に復調してきているが、コロナ禍前の状況と比してはおおよそ7割減の状況となった。

※参考 2018年度 542万円

バザー収入の推移

年度	2020	2021	2022	2023	2024
法人全体	48万円	70万円	89万円	109万円	115万円



エ.事業収入

福祉事業は、介護保険法による介護報酬や障害者総合支援法による介護給付費など、事業収入が主な財源となっている(2億7,018万円)。ボランティア・市民活動推進事業等においても、講座の参加費等、自主財源の確保に向けた取組みを進めた。

② 基本財産の保護と運用

協会が保有する1億円の基本財産は、銀行の定期預金で安定的に運用した。さらに、満期になる定期預金については地域での活動を展開する組織として、地元信用金庫などの地域を基盤にした金融機関に預けて運用している。また、併せて広報や募金箱設置の協力も得ている。

4. 職員体制

常勤職員 3名(組織推進部長1名/総務担当職員1名/経理担当職員1名)

臨時職員等 2名(庶務・総務担当職員1名/経理担当職員1名)

5. 中期計画の進捗状況(重点目標に対しての取り組みと成果)と今後の課題

① コンプライアンスを推進する経営の継続

信頼される組織として守るべき新たな法整備に沿った組織運営を実施した。

電子帳簿保存法改正の対応

インボイス制度の対応

労働基準法改正の対応

厚生年金保険法の改正の対応

健康保険法の改正の対応

働き方関連法案の対応

育児・介護休業等に関する法改正の対応。

② 働きやすい環境の整備

職員の就労環境の整備に関わる就業規則等の改定を実施した。また、クラウドを活用した出退勤システムを導入し、各種申請手続きの効率化を図った。

個人情報保護規程の一部改定

臨時職員就業規則の一部改定

職員給与規程の一部改定

登録ホームヘルパー賃金規程の一部改定

再雇用職員給与規程の一部改定

育児・介護休業等に関する規則の一部改定

③ 寄付の拡大と事務の効率化

寄付の拡充は、協会の様々な取り組みに共感いただける人や組織をつなぎ、寄付というボランティア参加の提案を行うとともに、安定的な法人運営の基礎となるものである。これまでの当会各窓口や郵便振替による寄付に加えて、新たに寄付受け付けのポータルサイトをインターネット上に開設し、当協会のホームページ上にもバナーを新設して24時間受付可能なクレジットカードや銀行振込による寄付の取扱いを開始した。



＜事業別の寄付募集チラシ＞



＜クレジットカードでの寄付ができる
ポータルサイト(シンカブル)の
世田谷ボランティア協会の受付画面
←こちらのQRコードから
寄付いただけます＞

6. 今後の課題

ア. 人事考課制度の見直し

職員がやりがいや達成感を得られる職場環境を整備するためには、職場内の円滑なコミュニケーションや、個々に明確な目標が理解されているなど、業務に打ち込める環境づくりを行っていく必要がある。そのため人事考課制度の見直し等も進めていく必要がある。

イ. 財源の確保

持続可能な組織として運営を担保する上では、財源確保の道筋をつくることも重要になる。クレジットカード等による新たな寄付窓口を開設することができたが、効果的な周知についてはポータルサイト上では寄付の拡充キャンペーンを進めて行く必要がある。

ウ. リスク管理及びセキュリティ向上の観点から、データの管理体制の構築が必要

「業務のデジタル化の整備・推進」は、組織推進部だけの取り組みではなく、法人全体に関わる取り組みでもあるため、情報端末であるパソコンの更新を機にデータの安全な管理運営についての方向性を確認した。

組織推進部としての具体的な成果としては、出退勤のクラウド管理を進めることができたことがあげられる。これまでの勤怠システムについては一部クラウド管理にて出退勤のみの記録を導入していたが、これまでと同様のコストで新たなシステムを導入することができ、単なる出退勤の対応だけではなく、各種申請についてもクラウド上で行えるものとして勤務状況を明確に把握することが可能になった。

また、業務上現金の取り扱いを少なるすることや、業務の利便性の向上、コストの削減を目的に部ごとにETCカードを含むクレジットカードの取り扱いを開始することとし、利用にあたっての規程や利用マニュアル、様式等の整備を行った。

次年度に向けて、コストバランスを考慮しながら必要に応じて更にDXを進めて行く。

組織運営体制図

